



**Nissan Chemical**  
CORPORATION

# 2022年3月期 決算説明会

取締役 宮崎純一

2022年5月13日

**Institutional  
Investor**  
2022 JAPAN EXECUTIVE TEAM  
MOST HONORED COMPANY  
NISSAN CHEMICAL CORP.

# Contents

01	2021年度通期 連結決算報告	P3
02	2022年度通期 業績予想	P8
03	セグメント概況	P20
04	前中計の振り返り、新中計Vista2027	P56
05	ESGトピックス	P62
06	参考資料	P71

# Contents

01	2021年度通期 連結決算報告	P3
02	2022年度通期 業績予想	P8
03	セグメント概況	P20
04	前中計の振り返り、新中計Vista2027	P56
05	ESGトピックス	P62
06	参考資料	P71

下期

前年同期比

- 売上高は、16億円の増収(+1%)
- 営業利益は、52億円増益(+21%)(会計方針の変更影響+8億円を含む※1)
- 純利益は、29億円増益(+15%)

通期

前年同期比

- 売上高は、11億円減収(-1%)
- 営業利益は、85億円増益(+20%)
- 純利益は、53億円増益(+16%)
- **営業利益・経常利益は8年連続・純利益は9年連続、過去最高益を更新**
- **コロナ禍にもかかわらず中計を達成、ROEは19.2%**

通期

業績予想比

(2022年2月発表予想との比較)

- 売上高は、3億円下ぶれ
- 営業利益は、10億円上ぶれ
- 純利益は、15億円上ぶれ

株主還元

- 通期配当122円(前年比18円増配)、10年連続増配
- 自己株式取得 120億円完了(2,033千株)
- 配当性向44.9%、総還元性向75.6%

※1 会計方針の変更影響の詳細は、p5,p72参照

# 2021年度通期決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績※1					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	945	437	709	1,146	2,091	918	495	667	1,162	2,080	-27 (-3%)	+58 (+13%)	-42 (-6%)	+16 (+1%)	-11 (-1%)
営業利益※2	180	56	189	245	425	213	126	171	297	510	+33 (+19%)	+70 (+124%)	-18 (-10%)	+52 (+21%)	+85 (+20%)
営業外損益	2	2	10	12	14	10	9	8	17	27	+8	+7	-2	+5	+13
経常利益※2	182	58	199	257	439	223	135	179	314	537	+41	+77	-20	+57	+98
特別損益	11	0	5	5	16	0	2	3	5	5	-11	+2	-2	0	-11
純利益※2-3	139	45	151	196	335	163	93	132	225	388	+24	+48	-19	+29	+53
EBITDA※4	228	83	219	302	530	260	152	200	352	612	+32	+69	-19	+50	+82
EPS(円/株)※2	95.96	30.97	104.80	135.77	231.73	113.94	65.64	92.30	157.94	271.88	+17.98	+34.67	-12.50	+22.17	+40.15
配当(円/株)	46	-	-	58	104	50	-	-	72	122	+4	-	-	+14	+18
配当性向	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	0.0%
配当総額	66	-	-	84	150	71	-	-	102	173	+5	-	-	+18	+23
売上高営業利益率※2	19.0%	12.9%	26.7%	21.4%	20.3%	23.2%	25.5%	25.5%	25.5%	24.5%	+4.2%	+12.6%	-1.2%	+4.1%	+4.2%
ROE	-	-	-	-	17.5%	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	+1.7%
為替レート(円/ドル)	107	105	106	105	106	110	114	116	115	112	-	-	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※5	36	44	56	50	43	70	80	86	83	77	-	-	-	-	-

※1 2021年実績は会計方針の変更影響を含む(p72参照)

※2 当時、償却期間5年で仮計算していた殺菌剤ダイセン(マンゼブ)事業の償却費を、会計監査後の確定値15.6年(加重平均)償却に修正。これにより、2020年3Q当時の公表値から営業利益、経常利益を+0.6億円、純利益を+0.4億円修正。セグメント別営業利益では調整額に反映。2020年3Qと4Qの内訳のみ修正、2020年度上期、下期、通期の値には影響なし

※3 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※4 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※5 実績は財務省貿易統計ベース

# 2021年度通期決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2021年度 予想 (2022年2月発表)			2021年度 実績※1			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
売上高	1,413	670	2,083	1,413	667	2,080	-3
営業利益	339	161	500	339	171	510	+10
営業外損益	19	-1	18	19	8	27	+9
経常利益	358	160	518	358	179	537	+19
特別損益	2	0	2	2	3	5	+3
純利益※1・2	256	117	373	256	132	388	+15
EBITDA※3	412	193	605	412	200	612	+7
EPS(円/株)	179.58	82.02	261.60	179.58	92.30	271.88	+10.28
配当(円/株)	50	68	118	50	72	122	+4
配当性向	-	-	45.1%	-	-	44.9%	-0.2%
配当総額	71	97	168	71	102	173	+5
売上高営業利益率	24.0%	24.0%	24.0%	24.0%	25.5%	24.5%	+0.5%
ROE	-	-	18.6%	-	-	19.2%	+0.6%
為替レート(円/ドル)	111	107	110	111	116	112	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※4	74	75	74	74	86	77	-

※1 2021年実績は会計方針の変更影響を含む(p5,p72参照) ※2 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※4 実績は財務省貿易統計ベース

# 営業利益の増減分析

		2021年度 実績	2020年度 実績	前年同期比	業績予想 (2022年2月発表)	業績予想比
		<b>510</b> 億円	<b>425</b> 億円	<b>+85</b> 億円(+20%)	<b>500</b> 億円	<b>+10</b> 億円
通期	化学品	前年同期比 +23億円	基礎化学品・ファインケミカルの増収			
		業績予想比 6億円上ぶれ	基礎化学品の増収			
	機能性材料	前年同期比 +53億円	ディスプレイ・半導体の大幅増収			
		業績予想比 4億円上ぶれ	ディスプレイ・無機の上ぶれ			
	農業化学品	前年同期比 +1億円	ダイセン・タルガ・クインテック・ラウンドアップの増収			
		業績予想比 10億円下ぶれ	フルララネル原薬・クインテック・ラウンドアップ下ぶれ			
	医薬品	前年同期比 +5億円	ファインテック増収			
		業績予想比 3億円上ぶれ	リバロ・ファインテックの上ぶれ			

		2021年度 実績	2020年度 実績	前年同期比		
		<b>297</b> 億円	<b>245</b> 億円	<b>+52</b> 億円(+21%)		
下期	化学品	前年同期比 +10億円	基礎化学品・ファインケミカルの増収			
	機能性材料	前年同期比 +28億円	ディスプレイ・半導体の大幅増収			
	農業化学品	前年同期比 +9億円	ダイセン・タルガの増収			
	医薬品	前年同期比 0億円	リバロ・ファインテック減収も、在庫変動影響(増益要因)で利益横ばい			

# Contents

01

2021年度通期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P20

04

前中計の振り返り、新中計Vista2027

P56

05

ESGトピックス

P62

06

参考資料

P71



## 2022通期業績予想

上期 | 前年同期比

- 売上高は、93億円増収(+10%)
- 営業利益は、47億円増益(+22%)
- 純利益は、30億円増益(+18%)

通期 | 前年同期比

- 売上高は、110億円増収(+5%)
- 営業利益は、25億円増益(+5%)
- 純利益は、8億円増益(+2%)
- **営業利益・経常利益は9年連続、純利益は10年連続、過去最高益を更新**
- **ROE予想は18.7%**

## 株主還元予想

- 新中計(p60参照)に基づき、総還元性向目標は75%維持、配当性向は45%から55%に引き上げ
- 前年122円から154円に増配し、11年連続増配、自己株式取得50億円を発表

配当	通期154円 中間66円、期末88円、配当性向54.8% 【前年比】通期32円増配 中間16円増配、期末16円増配
自己株式取得	50億円 ● 2022年5月13日発表分 50億円(2022年5月~7月)(2021年度実績 120億円、2,033千株)
自己株式消却	1百万株消却済(2022年5月)
総還元性向目標	75%(配当154円と自己株式取得50億円に基づけば67.4%)

# 2022年度通期予想サマリー 前年同期比

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	465	453	918	1,162	2,080	524	487	1,011	1,179	2,190	+59 (+13%)	+34 (+8%)	+93 (+10%)	+17 (+1%)	+110 (+5%)
営業利益	119	94	213	297	510	146	114	260	275	535	+27 (+23%)	+20 (+21%)	+47 (+22%)	-22 (-7%)	+25 (+5%)
営業外損益	4	6	10	17	27	6	-3	3	3	6	+2	-9	-7	-14	-21
経常利益	123	100	223	314	537	152	111	263	278	541	+29	+11	+40	-36	+4
特別損益	0	0	0	5	5	3	0	3	2	5	+3	0	+3	-3	0
純利益※1	88	75	163	225	388	112	81	193	203	396	+24	+6	+30	-22	+8
EBITDA※2	142	118	260	352	612	-	-	312	339	651	-	-	+52	-13	+39
EPS(円/株)	61.73	52.21	113.94	157.94	271.88	-	-	136.77	144.13	280.90	-	-	+22.83	-13.81	+9.02
配当(円/株)	-	-	50	72	122	-	-	66	88	154	-	-	+16	+16	+32
配当性向	-	-	-	-	44.9%	-	-	-	-	54.8%	-	-	-	-	+9.9%
配当総額	-	-	71	102	173	-	-	93	124	217	-	-	+22	+22	+44
売上高営業利益率	25.5%	20.9%	23.2%	25.5%	24.5%	27.9%	23.4%	25.7%	23.3%	24.4%	+2.3%	+2.5%	+2.5%	-2.2%	-0.1%
ROE	-	-	-	-	19.2%	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	-0.5%
為替レート(円/ドル)	110	110	110	115	112	115	115	115	115	115	-	-	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	67	73	70	83	77	88	88	88	88	88	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

## 上期

2022年度 予想	2021年度 実績	前年同期比
<b>260</b> 億円	<b>213</b> 億円	<b>+47</b> 億円(+22%)
化学品	前年同期比 +2億円	基礎化学品の増収
機能性材料	前年同期比 +13億円	ディスプレイ・半導体の増収
農業化学品	前年同期比 +25億円	フルララネル・グレーシア・パーミットの増収
ヘルスケア	前年同期比 +6億円	リバロ・ファインテックの減収も、組織改定※による固定費の減少で増益

## 通期

2022年度 予想	2021年度 実績	前年同期比
<b>535</b> 億円	<b>510</b> 億円	<b>+25</b> 億円(+5%)
化学品	前年同期比 -16億円	基礎化学品の減収
機能性材料	前年同期比 +28億円	半導体・無機の増収
農業化学品	前年同期比 +12億円	フルララネル・グレーシア・ラウンドアップの増収
ヘルスケア	前年同期比 +12億円	リバロ・ファインテック減収も、組織改定※による固定費の減少で増益

※ 組織改定による影響はp21,p52を参照

# 営業外損益・特別損益の内訳

(億円)

	2020年度 実績	2021年度 実績	前年同期比	2021年度 予想 (2022年2月作成、 予想値は非開示)	2022年度 予想
営業外収益	27.9	38.2	+10.3	29.4	20.1
受取利息・配当金	10.0	8.2	-1.8	6.4	7.5
為替差益	0.0	11.3	+11.3	3.1	0.0
持分法投資損益 他	17.9	18.7	+0.8	19.9	12.6
営業外費用	14.3	10.9	-3.4	11.5	14.7
支払利息	0.7	0.7	0.0	0.8	0.8
為替差損	0.5	0.0	-0.5	0.0	0.0
固定資産処分損 他	13.1	10.2	-2.9	10.7	13.9
営業外損益	13.6	27.3	+13.7	17.9	5.4
特別利益	15.9	33.7	+17.8	33.2	5.0
特別損失	0.0	29.0	+29.0	30.9	0.0
特別損益 <sup>※1・2・3</sup>	15.9	4.7	-11.2	2.3	5.0

※1 2020年度年間実績:

特別利益+15.9億円(有価証券売却益15.9億円・売却額30.7億円、16銘柄(うち11銘柄保有全株数売却)、非上場株を含む)

※2 2021年度年間実績:

特別利益+33.7億円(有価証券売却益33.7億円・売却額43.3億円、9銘柄(うち3銘柄保有全株数売却)、非上場株を含む)

特別損失-29.0億円(メラミン構造改善費用17.9億円、日本燐酸設備撤去費用6.3億円、出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損4.8億円)

※日本燐酸: 当社関連会社(出資比率35%)、硫酸および燐酸液の製造・販売。燐酸液の製造停止決定に伴い、出資比率に応じて設備撤去費用等を負担

※3 2022年度年間予想:

特別利益+5.0億円(有価証券売却益5.0億円)

2021年度のフリー・キャッシュ・フローは295億円となり、前年同期比24億円の増加

(億円)

	2020年度 実績	2021年度 実績	前年同期比	2021年度 予想 (2021年11月発表)	2022年度 予想
営業活動によるキャッシュ・フロー	399	419	+20	393	433
税金等調整前純利益※1	455	542	+87	498	546
特別損益(マイナスは益)	-16	-5	+11	-10	-5
減価償却費※1・2	104	102	-2	105	116
法人税等の支払	-111	-132	-21	-132	-137
運転資金増減他※1	-33	-88	-55	-68	-87
投資活動によるキャッシュ・フロー	-128	-124	+4	-138	-212
設備投資	-82	-113	-31	-134	-201
投資有価証券購入・売却	29	41	+12	46	10
その他※3	-75	-52	+23	-50	-21
フリー・キャッシュ・フロー	271	295	+24	255	221
財務活動によるキャッシュ・フロー	-256	-278	-22	-265	-275
株主還元(配当)	-136	-155	-19	-264	-275
株主還元(自己株式取得)	-100	-120	-20		
借入金増減	-20	-3	+17	0	0
その他	0	0	0	-1	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	6	+3	-1	0
現金及び現金同等物の増減額	18	23	+5	-11	-54
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	0	0	9	17
現金及び現金同等物の残高	324	347	+23	322	310

※1 2020実績:ダイセン償却費再計算影響により、修正(p5参照) ※2 のれん償却費を含む ※3 2020実績:ダイセン事業買収-54、他-21、2021実績:NBRへの長期貸付-33、他-19

(億円)

	2021年3月末	2022年3月末	前期末比
<b>流動資産</b>	<b>1,596</b>	<b>1,753</b>	<b>+157</b>
現預金	324	347	+23
売上債権	739	800	+61
たな卸資産	467	522	+55
その他	66	84	+18
<b>固定資産</b>	<b>1,059</b>	<b>1,044</b>	<b>-15</b>
有形固定資産	518	532	+14
無形固定資産	121	118	-3
投資有価証券	359	302	-57
その他	61	92	+31
<b>資産合計</b>	<b>2,655</b>	<b>2,797</b>	<b>+142</b>

	2021年3月末	2022年3月末	前期末比
<b>負債</b>	<b>649</b>	<b>717</b>	<b>+68</b>
買入債務	163	190	+27
借入金	227	227	0
その他	259	300	+41
<b>純資産</b>	<b>2,006</b>	<b>2,080</b>	<b>+74</b>
株主資本※2	1,869	1,967	+98
その他有価証券評価差額金	114	83	-31
為替換算調整勘定	1	9	+8
非支配株主持分	17	21	+4
退職給付に係る調整累計額	5	0	-5
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,655</b>	<b>2,797</b>	<b>+142</b>

## 投資有価証券(固定資産)の内訳

	2021年3月末	2022年3月末	前期末比
<b>上場株式※1</b> (単体ベース保有銘柄数)	<b>244</b> <b>(31)</b>	<b>189</b> <b>(30)</b>	<b>-55</b> <b>(-1)</b>
非上場株式	27	26	-1
関係会社株式	88	87	-1
<b>合計</b>	<b>359</b>	<b>302</b>	<b>-57</b>

自己資本比率	<b>74.9%</b>	<b>73.6%</b>
D/Eレシオ※3	<b>-5.2%</b>	<b>-6.1%</b>

※1 21/3末 244 + 取得0 - 売却・評価差額55 = 22/3末 189

※2 株主資本増減 +98 = 純利益388 - 配当その他290

※3 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

# セグメント別 設備投資額・減価償却費・研究開発費

研究開発費は2020-21年度減少傾向にあったものの、2022年度は回復を見込む

(億円)

	設備投資※1						減価償却※2						研究開発費					
	2017	2018	2019	2020	2021	2022 予想	2017	2018	2019	2020	2021	2022 予想	2017	2018	2019	2020	2021	2022 予想
化学品	26	20	31	49	23	39	17	18	19	22	25	26	6	6	4	3	3	4
機能性材料※3	72	33	33	32	57	83	59	60	52	45	39	47	81	82	77	70	70	78
農業化学品※4	26	33	79	64	15	41	14	17	23	26	27	30	43	45	46	44	42	45
ヘルスケア※5	7	5	6	5	7	5	7	6	6	5	5	4	25	25	25	24	21	7
卸売	0	1	1	1	0	3	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	6	7	7	7	8	12	7	7	4	5	5	6	17	20	20	24	24	40
<b>合計</b>	<b>137</b>	<b>99</b>	<b>157</b>	<b>158</b>	<b>110</b>	<b>183</b>	<b>105</b>	<b>109</b>	<b>105</b>	<b>104</b>	<b>102</b>	<b>114</b>	<b>172</b>	<b>178</b>	<b>172</b>	<b>165</b>	<b>160</b>	<b>174</b>

※1 設備投資額  
 ・実績：検収ベース  
 ・予想：稼動開始ベース  
 (一部、検収ベース)

※2 減価償却法  
 ・サンエパー、ARC®、多層材料：4年定率(初年度50%を償却)  
 ・その他製品：8年定率(初年度25%を償却)

※3 2022年予想 NCK新工場(30億円・検収ベース)を含む

※4 2019年クインテック買収(63億円)、2020年ダイセン買収(54億円)、  
 2022年予想 NBR 第1期工事(27億円・検収ベース)を含む

※5 2022年4月に組織改定を実施。2017-21数字は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

## 半導体材料に関する主要な設備投資額※6

半導体の微細化進行に沿って評価機器・開発設備・生産設備に重点的に投資

(億円)

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 予想
11	56	40	4	4	2	15	3	38

※6 主要な設備投資額：承認ベース

# 主要な設備投資※1一覽

(億円)

2019年度 実績		2020年度 実績		2021年度 見込み		2022年度 予想	
項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
シアヌル酸※2増強	19	材料研(機器)	14	農薬(製造設備)	43	NCK 半導体※3 (製造設備)	30
物質研(機器)	7	デジタル関連	11	デジタル関連	15	NBR 農薬※4 (製造設備)	27
材料研(機器)	6	農薬(製造設備)	9	物質研(機器)	7	デジタル関連	22
DP(製造設備)	5	半導体分析機器	8	材料研(機器)	5	DP(製造設備)	15
生物科学研(機器)	3	物質研(機器)	7	DP(製造設備)	3	物質研(機器)	9
テピック(製造設備)	2	NCK 半導体 (製造設備)	4	生物科学研(機器)	3	材料研(機器)	8
		生物科学研(機器)	2			生物科学研(機器)	4
						スノーテックス (製造設備)	3

※1 主要投資額：承認ベース(一部、検収ベース) ※2 ファインケミカル(p30参照) ※3 NCK新工場(検収ベース) ※4 NBR 第1期工事(検収ベース)



# 将来の成長エンジン 2021年度予想(2021年5月発表)

## セグメント別 成長製品の売上高規模※1 2021年度予想(2021年5月発表)

	3億円未満		3億円以上6億円未満	6億円以上	合計
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファインケミカル</li> <li>テピック新製品(液状)</li> </ul>	ビーナスオイルクリーン			0億円
機能性材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスプレイ</li> <li>フレキシブルHC材料</li> <li>ホール注入材</li> <li>位相差フィルム用配向材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調光フィルム材料</li> <li>撥液バンク材料</li> <li>TV向け配向材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体</li> <li>CMOSイメージセンサー材料</li> <li>無機</li> <li>オイル&amp;ガス材料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体</li> <li>EUV材料</li> </ul>	33億円
農業化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入剤</li> <li>ネクスター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランスフォーム™</li> <li>エクシード™</li> <li>ビレスコ™</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自社開発</li> <li>グレーシア</li> <li>ラウンドアップALII/III</li> <li>買収剤</li> <li>クインテック</li> <li>ダイセン</li> </ul>	113億円
医薬品	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファインテック</li> <li>新規ジェネリック</li> </ul>	新規ジェネリック		<ul style="list-style-type: none"> <li>ファインテック</li> <li>エルデカルシトール</li> </ul>	11億円
企画本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイエンス材料開発部</li> </ul>	細胞培養材料			1億円

※1 サンプル出荷に伴う試験費控除も含む

**158 億円**

## セグメント別 成長製品の売上高規模※1 2021年度実績

	3億円未満	3億円以上6億円未満	6億円以上	合計
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファインケミカル</li> <li>テピック新製品(液状)</li> <li>ビーナスオイルクリーン</li> </ul>			0億円
機能性材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスプレイ</li> <li>調光フィルム材料</li> <li>撥液バンク材料</li> <li>ホール注入材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無機</li> <li>オイル&amp;ガス材料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体</li> <li>EUV材料</li> </ul>	34億円
農業化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入剤</li> <li>ネクスター</li> <li>自社開発</li> <li>クラール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランスフォーム™</li> <li>エクシード™</li> <li>ビレスコ™</li> <li>アレイル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社開発</li> <li>グレーシア</li> <li>ラウンドアップALⅡ/Ⅲ</li> <li>買収剤</li> <li>クインテック</li> <li>ダイセン</li> </ul>	97億円
医薬品	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファインテック</li> <li>新規ジェネリック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規ジェネリック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファインテック</li> <li>エルデカルシトール</li> </ul>	11億円
企画本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイエンス材料開発部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞培養材料</li> </ul>		0億円

※1 サンプル出荷に伴う試験費控除も含む

**142億円**

## 新中期経営計画Vista2027において成長が期待される新製品群

### 機能性材料

- **ディスプレイ 有機EL関連材料**  
有機ELに使用される材料の開発、拡販に取り組む
- **半導体 EUV材料、三次元実装材料**  
半導体の更なる微細化・積層化に対応する材料の拡販を目指す

### 農業化学品

- **農薬 NC-653**  
2024年上市予定の水稲用除草剤。抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ
- **農薬 NC-520**  
2025年上市予定の水稲用殺虫剤。ウンカ類に卓越した効果を示す
- **農薬 NC-656**  
2027年上市予定の水稲用除草剤。抵抗性イネ科雑草に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤

### ヘルスケア

- **ヘルスケア**  
核酸医薬7テーマへの取り組み、生体界面制御材料、化粧品材料での伸長を目指す
- **ファインテック**  
ジェネリック、ペプチド受託に取り組む

### 企画本部

- **情報通信材料 FOWLP用RDL材料、光配線材料**  
RDL用感光絶縁膜材料を開発中。FOWLP、3D/2.5Dなど次世代パッケージでの採用獲得を目指す  
半導体の基板上に光の通り道を配線する材料。パッケージ基板メーカー等での採用獲得を目指す
- **環境エネルギー材料 二次電池材料**  
電池特性向上を図るスラリー添加剤。現在、電池/自動車メーカーにて評価中。

# Contents

01

2021年度通期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P20

04

前中計の振り返り、新中計Vista2027

P56

05

ESGトピックス

P62

06

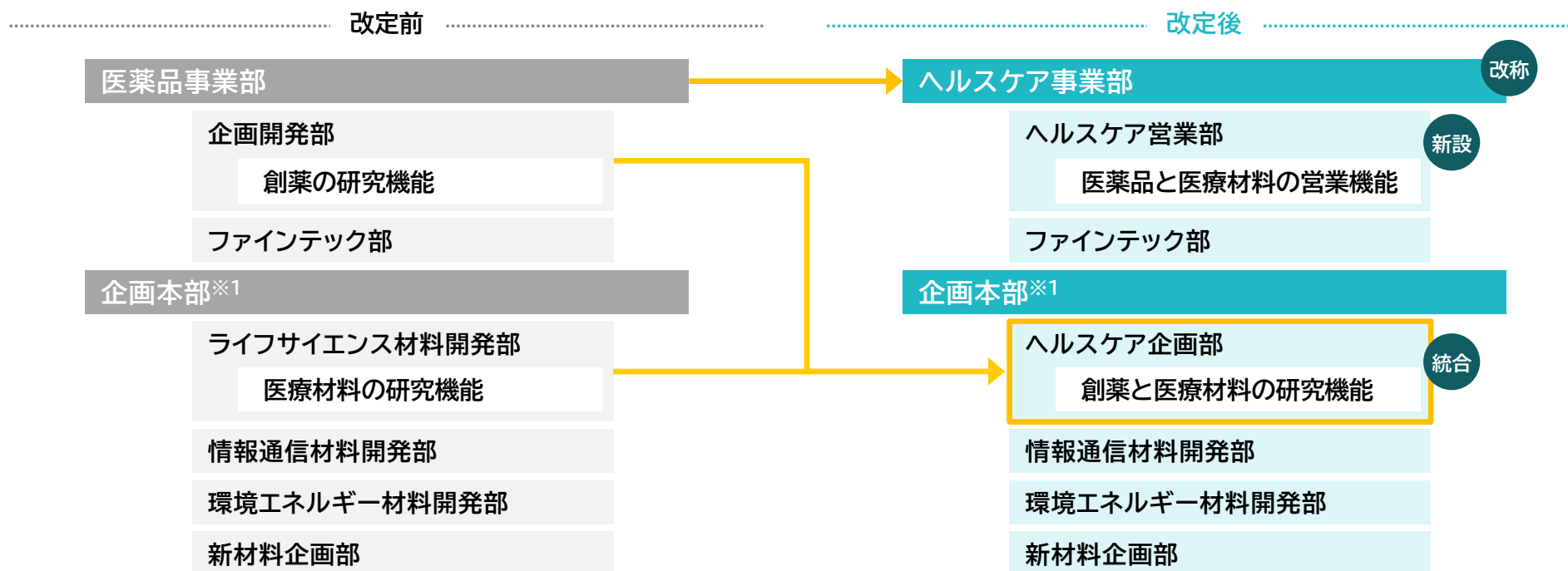
参考資料

P71

事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施

## 医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

**目的** 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)



※1 企画本部はセグメントでは「卸売・その他・調整額」に含まれる。企画本部の2021年度実績および2022、2024、2027年度予想の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

## サステナビリティ・IR部の新設 (経営企画部CSR機能と財務部IR機能の統合)

**目的** サステナビリティ向上に資する活動の推進、財務・非財務の統合的な情報開示とステークホルダーとの対話の強化

# セグメント別 2021年度通期決算 前年同期比

(億円)

		2020年度 実績					2021年度 実績					前年同期比			
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	3Q	4Q	下期	年間
化学品	売上高	147	83	89	172	319	171	105	100	205	376	+22 (+26%)	+11 (+14%)	+33 (+20%)	+57 (+18%)
	営業利益	-1	7	9	16	15	12	13	13	26	38	+6 (+81%)	+4 (+47%)	+10 (+62%)	+23 (+156%)
機能性材料	売上高	346	192	178	370	716	396	209	212	421	817	+17 (+9%)	+34 (+19%)	+51 (+14%)	+101 (+14%)
	営業利益	107	63	54	117	224	132	76	69	145	277	+13 (+21%)	+15 (+28%)	+28 (+24%)	+53 (+24%)
農業化学品	売上高	257	63	318	381	638	250	119	289	408	658	+56 (+92%)	-29 (-9%)	+27 (+7%)	+20 (+3%)
	営業利益	78	-13	117	104	182	70	31	82	113	183	+44 (-)	-35 (-29%)	+9 (+9%)	+1 (+1%)
医薬品	売上高	30	14	23	37	67	33	20	13	33	66	+6 (+38%)	-10 (-39%)	-4 (-9%)	-1 (0%)
	営業利益	0	0	4	4	4	5	4	0	4	9	+4 (-)	-4 (-85%)	0 (+50%)	+5 (+165%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	165	85	101	186	351	68	42	53	95	163	-43	-48	-91	-188
	営業利益	-4	-1	5	4	0	-6	2	7	9	3	+3	+2	+5	+3
合計	売上高	945	437	709	1,146	2,091	918	495	667	1,162	2,080	+58 (+13%)	-42 (-6%)	+16 (+1%)	-11 (-1%)
	営業利益	180	56	189	245	425	213	126	171	297	510	+70 (+124%)	-18 (-10%)	+52 (+21%)	+85 (+20%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他・調整額：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか（内訳はp82,p83参照）

※ 企画本部の2021年度実績の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

# セグメント別 2021年度通期決算 業績予想比

(億円)

		2021年度 予想 (2022年2月発表)			2021年度 実績			業績予想比
		1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
化学品	売上高	276	97	373	276	100	376	+3
	営業利益	25	7	32	25	13	38	+6
機能性材料	売上高	605	208	813	605	212	817	+4
	営業利益	208	65	273	208	69	277	+4
農業化学品	売上高	369	296	665	369	289	658	-7
	営業利益	101	92	193	101	82	183	-10
医薬品	売上高	53	11	64	53	13	66	+2
	営業利益	9	-3	6	9	0	9	+3
卸売・その他・調整額	売上高	110	58	168	110	53	163	-5
	営業利益	-4	0	-4	-4	7	3	+7
合計	売上高	1,413	670	2,083	1,413	667	2,080	-3
	営業利益	339	161	500	339	171	510	+10

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他・調整額：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか（内訳はp82,p83参照）

※ 企画本部の2021年度実績の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

# セグメント別 2022年度通期業績予想 前年同期比

(億円)

		2021年度 実績					2022年度 予想					前年同期比				
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
化学品	売上高	88	83	171	205	376	102	91	193	193	386	+14 (+15%)	+8 (+10%)	+22 (+13%)	-12 (-6%)	+10 (+3%)
	営業利益	13	-1	12	26	38	16	-2	14	8	22	+3 (+26%)	-1 (-)	+2 (+19%)	-18 (-70%)	-16 (-42%)
機能性材料	売上高	200	196	396	421	817	212	222	434	465	899	+12 (+6%)	+26 (+13%)	+38 (+10%)	+44 (+10%)	+82 (+10%)
	営業利益	70	62	132	145	277	71	74	145	160	305	+1 (+2%)	+12 (+19%)	+13 (+10%)	+15 (+10%)	+28 (+10%)
農業化学品	売上高	134	116	250	408	658	172	135	307	422	729	+38 (+28%)	+19 (+17%)	+57 (+23%)	+14 (+3%)	+71 (+11%)
	営業利益	41	29	70	113	183	57	38	95	100	195	+16 (+39%)	+9 (+31%)	+25 (+36%)	-13 (-12%)	+12 (+6%)
ヘルスケア	売上高	11	22	33	33	66	16	14	30	29	59	+5 (+50%)	-8 (-38%)	-3 (-10%)	-4 (-12%)	-7 (-11%)
	営業利益	-2	7	5	4	9	6	5	11	10	21	+8 (-)	-2 (-21%)	+6 (+144%)	+6 (+102%)	+12 (+122%)
卸売・その他・調整額	売上高	32	36	68	95	163	22	25	47	70	117	-10	-11	-21	-25	-46
	営業利益	-3	-3	-6	9	3	-4	-1	-5	-3	-8	-1	+2	+1	-12	-11
合計	売上高	465	453	918	1,162	2,080	524	487	1,011	1,179	2,190	+59 (+13%)	+34 (+7%)	+93 (+10%)	+17 (+1%)	+110 (+5%)
	営業利益	119	94	213	297	510	146	114	260	275	535	+27 (+23%)	+20 (+21%)	+47 (+22%)	-22 (-7%)	+25 (+5%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

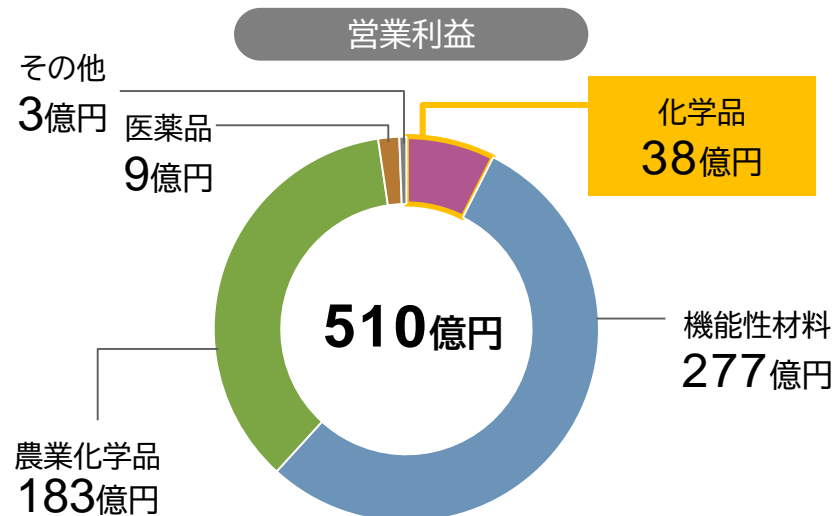
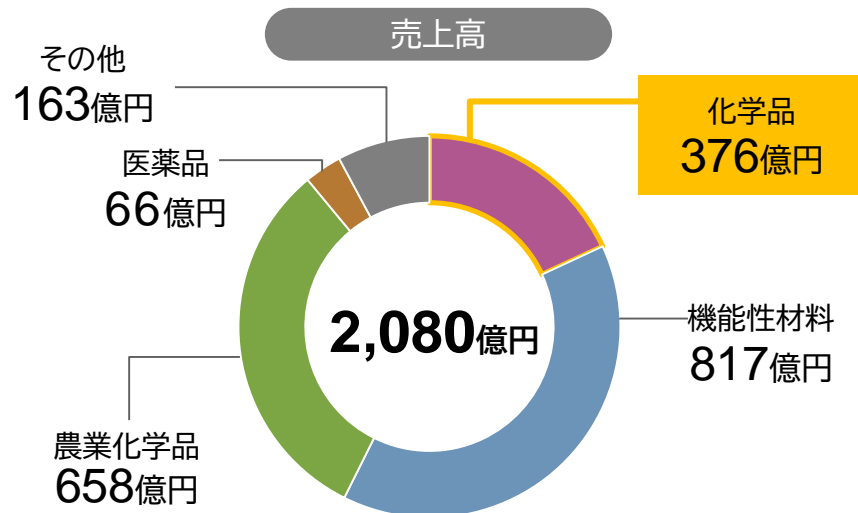
※ 卸売：日星産業、その他・調整額：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか（内訳はp82,p83参照）

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

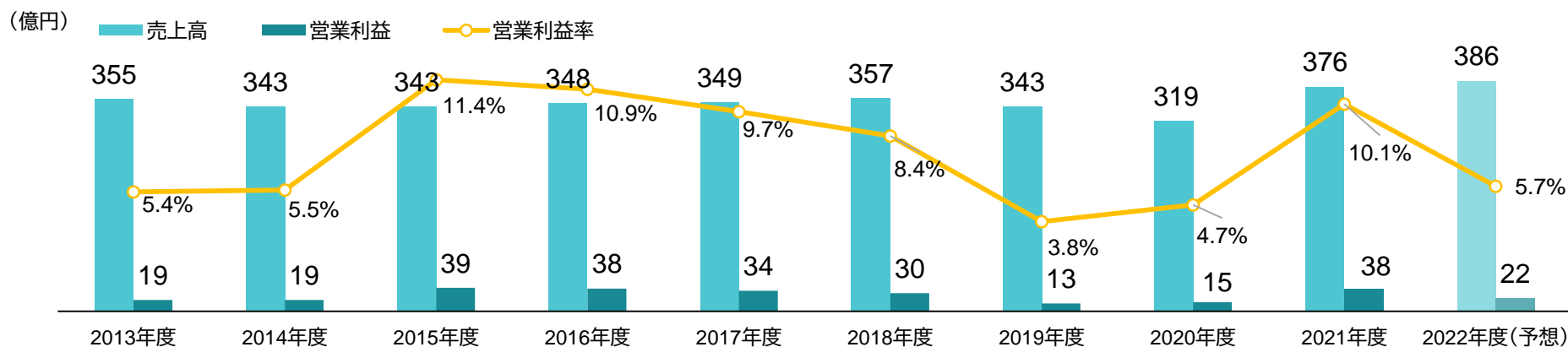
※ 2022年4月に組織改定を実施。2021年度数字は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)



## 2021年度セグメント別業績



## 化学品セグメント業績推移



- ファインケミカルは、2021年度下期で15%増収、業績予想比で下ぶれ、2022年度年間では12%増収予想
- 基礎化学品は、2021年度下期で22%増収、業績予想比で上ぶれ、2022年度年間で2%減収予想

主要製品	2021年 実績					業績予想比 (2022年2月作成 予想値は非開示)	2022年 予想		
	前年同期比						前年同期比		
	上期	3Q	4Q	下期	計		上期	下期	計
テピック	+26%	+20%	-10%	+5%	+13%	下ぶれ	+12%	+4%	+8%
環境化学品	+10%	+30%	+13%	+20%	+15%	下ぶれ	+18%	+13%	+16%
ファインオキシコール	+34%	+54%	+77%	+65%	+50%	上ぶれ	+24%	-7%	+7%
ファインケミカル合計※1	+15%	+27%	+4%	+15%	+15%	下ぶれ	+17%	+7%	+12%
メラミン※2	+41%	+99%	+54%	+76%	+61%	上ぶれ	+5%	-	-62%
尿素・アドブルー®	+14%	+23%	+40%	+32%	+24%	上ぶれ	+44%	+30%	+36%
高純度硫酸	+10%	+8%	0%	+4%	+7%	予想通り	+3%	+9%	+6%
硝酸製品	+20%	+12%	+9%	+10%	+15%	上ぶれ	+6%	-1%	+3%
基礎化学品合計※3・4	+17%	+25%	+19%	+22%	+20%	上ぶれ	+10% (+11%)	-12% (+10%)	-2% (+11%)
化学品セグメント合計※3	+16%	+26%	+14%	+20%	+18%	上ぶれ	+13% (+13%)	-6% (+9%)	+3% (+11%)

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2021年度実績ファインケミカル売上高に占める割合: 87%

※2 メラミンは2022年6月に生産停止の予定(p31参照、メラミン生産停止による構造改革)

※3 2022年度予想の()内の伸び率は、2021年実績・2022予想ともにメラミンを除いた合計での伸び率

※4 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2021年度実績基礎化学品売上高に占める割合: 56%

【下期】売上高+33億円、営業利益+10億円 【年間】売上高+57億円、営業利益+23億円

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					前年同期比		
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	4Q	下期	年間
売上高	147	83	89	172	319	171	105	100	205	376	+11	+33	+57
ファインケミカル	54	28	32	60	114	62	37	32	69	131	0	+9	+17
基礎化学品	93	55	57	112	205	109	68	68	136	245	+11	+24	+40
営業利益	-1	7	9	16	15	12	13	13	26	38	+4	+10	+23

【下期】増収・増益 【年間】増収・増益

テピック一般 【下期】【年間】とも価格上昇で増収

テピック電材 【下期】【年間】とも半導体不足の影響で減収

環境化学品 【下期】【年間】ともシアヌル酸増強で増収

ファインオキシコール 【下期】【年間】とも化粧品向け回復で増収

【下期】原燃料高、運送費高騰(減益要因)

【年間】原燃料高、運送費高騰(減益要因)

ファイン  
ケミカル

【下期】増収・増益 【年間】増収・増益

メラミン 【下期】【年間】とも価格上昇で増収

尿素・アドブルー® 【下期】【年間】とも増収

高純度硫酸 【下期】【年間】とも増収

硝酸製品 【下期】【年間】とも増収

【下期】原燃料高(減益要因)

【年間】原燃料高、運送費高騰(減益要因)

基礎  
化学品

【4Q】売上高+3億円、営業利益+6億円

(億円)

	2021年度 予想 (2022年2月発表)			2021年度 実績			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
売上高	276	97	373	276	100	376	+3
ファインケミカル	99	37	136	99	32	131	-5
基礎化学品	177	60	237	177	68	245	+8
営業利益	25	7	32	25	13	38	+6

【4Q】売上高下ぶれ・営業利益上ぶれ

ファイン  
ケミカル

- テピック一般 2022年度へ出荷後倒しで売上高下ぶれ
- テピック電材 半導体不足の影響で売上高下ぶれ
- 環境化学品 2022年度へ出荷後倒しで売上高下ぶれ
- ファインオキシコール 化粧品向け回復で売上高上ぶれ

原燃料高(減益要因)、  
在庫変動影響3億円(増益要因)

基礎  
化学品

【4Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

- メラミン 価格上昇で売上高上ぶれ
- 尿素・アドブルー® 価格上昇で売上高上ぶれ
- 高純度硫酸 売上高予想通り
- 硝酸製品 売上高上ぶれ

原燃料高(減益要因)

【年間】売上高+10億円、営業利益-16億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	88	83	171	205	376	102	91	193	193	386	+14	+8	+22	-12	+10
ファインケミカル	32	30	62	69	131	37	36	73	74	147	+5	+6	+11	+5	+16
基礎化学品	56	53	109	136	245	65	55	120	119	239	+9	+2	+11	-17	-6
営業利益	13	-1	12	26	38	16	-2	14	8	22	+3	-1	+2	-18	-16

【年間】増収・利益横ばい

ファイン  
ケミカル

- テピック一般 2021年度からの出荷後ろ倒しで増収
- テピック電材 半導体不足解消で増収
- 環境化学品 価格上昇、出荷増で増収
- ファインオキシコール 価格上昇で増収

原燃料高、運送費高騰(減益要因)

【年間】減収・減益

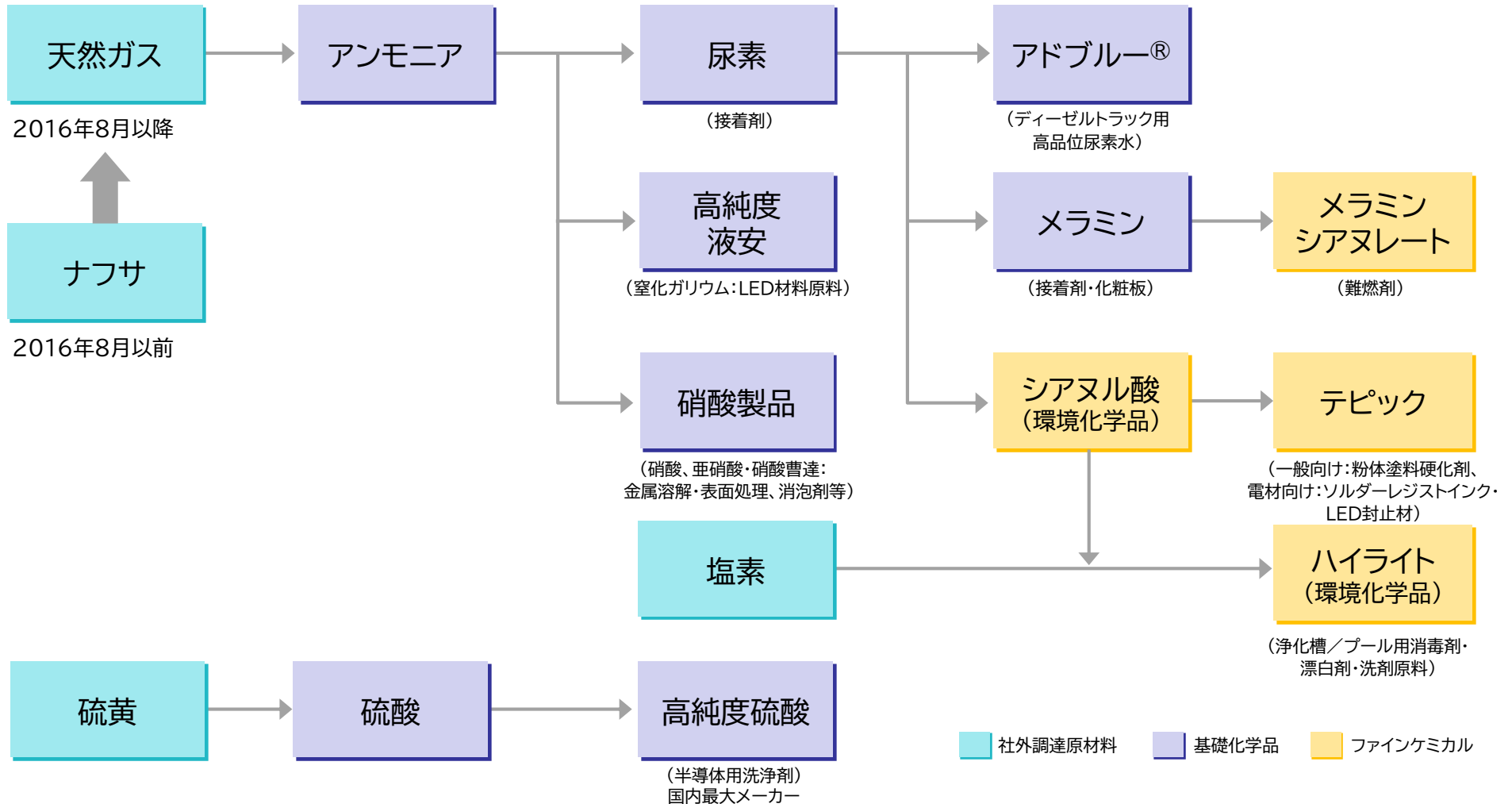
基礎  
化学品

- メラミン 2022年6月生産停止により減収
- 尿素・アドブルー® 価格上昇、出荷増で増収
- 高純度硫酸 顧客新棟本格稼働により増収
- 硝酸製品 価格上昇で増収

原燃料高(減益要因)

固定費増加3億円、在庫変動影響7億円(減益要因)

主要製品は、アンモニア系と硫酸系。2021年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%。規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力する



2021年8月発表通り、2022年6月にメラミン生産を停止予定。  
 今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中させていく。

## 1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2021年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	925(66%)	19(20%)	アンモニア、尿素・アドブルー®、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系	470(34%)	77(80%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,395(100%)	96(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

## 2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難でリスクの大きい事業、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

## 3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

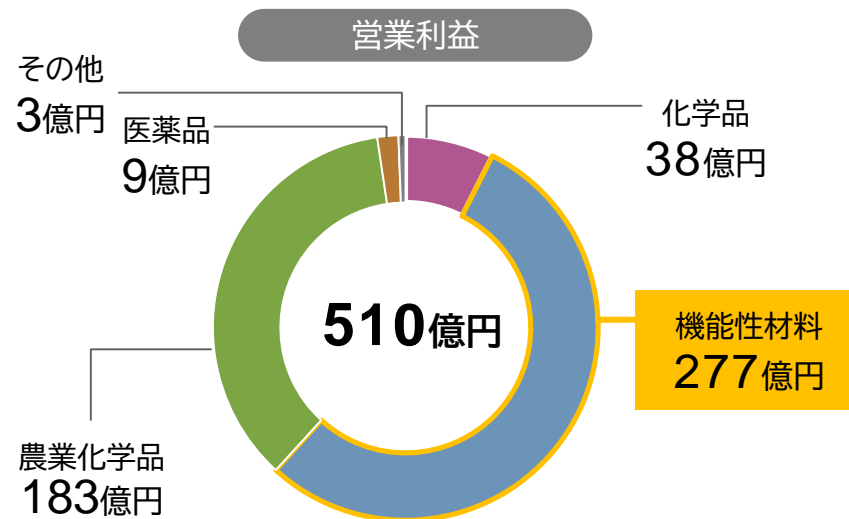
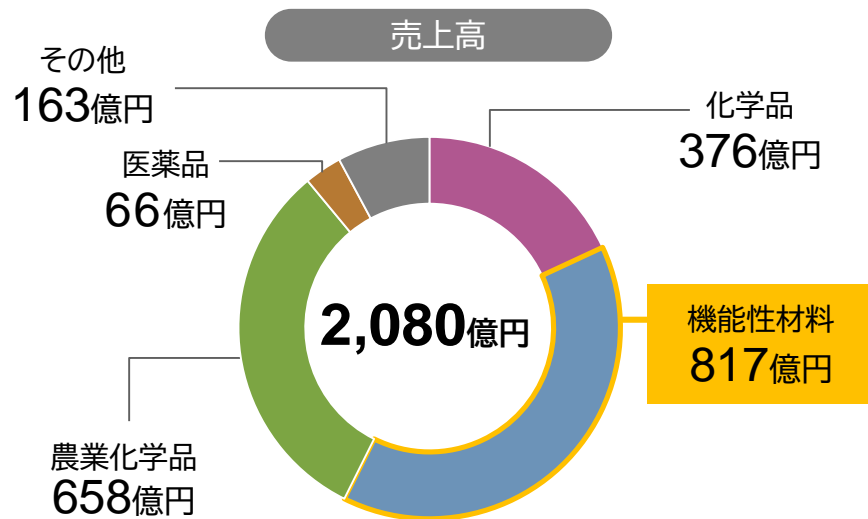
## 4. 業績への影響

メラミン関連諸費用は投資有価証券売却益で対応し影響は軽微(2021年2Q計上済み、p12参照)

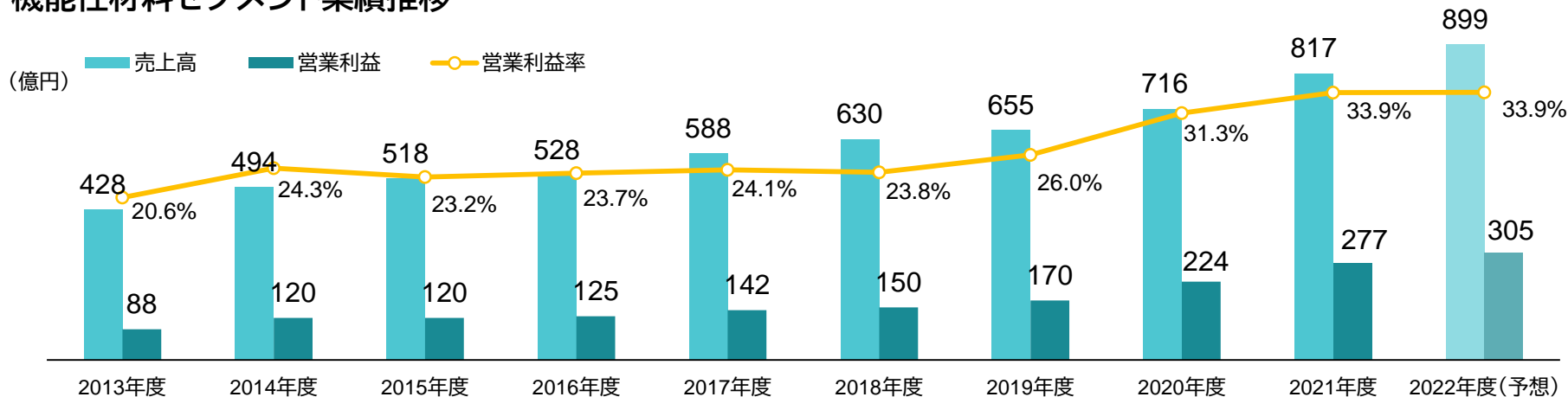
## 5. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン  
 →2018年度実績の約7%に相当(p63参照)

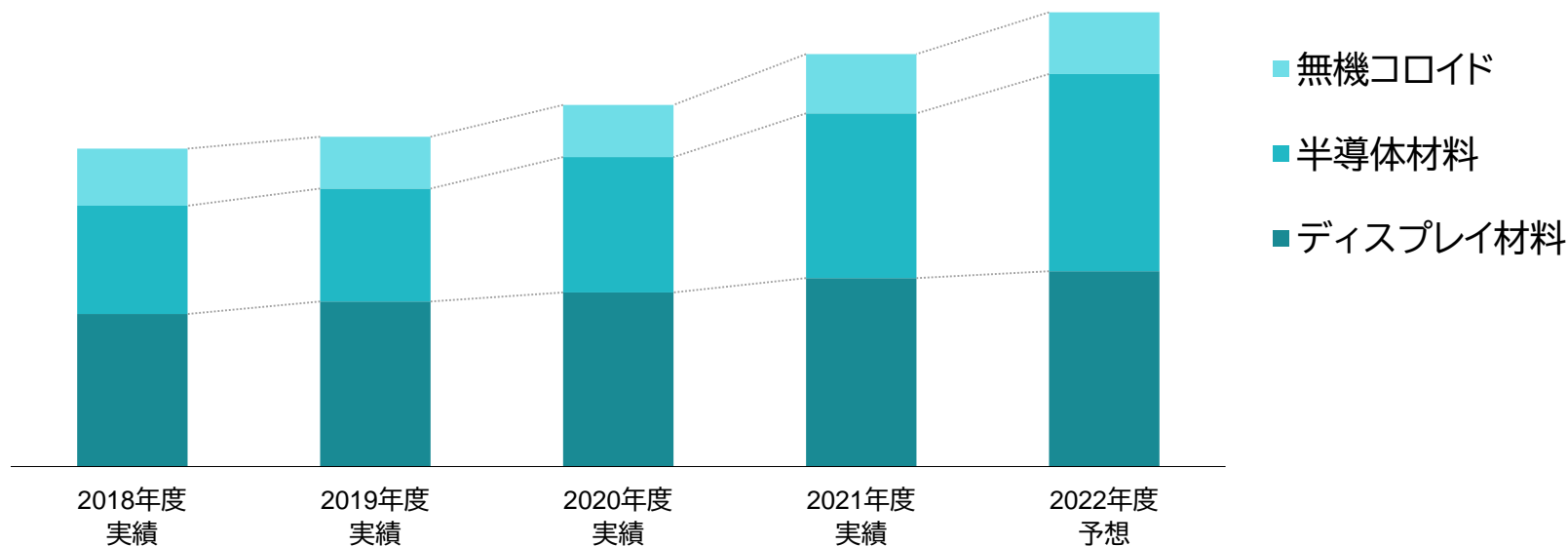
2021年度セグメント別業績



機能性材料セグメント業績推移







主要製品

ディスプレイ材料

サンエバー

液晶配向材用ポリイミド

半導体材料

ARC®

半導体用反射防止コーティング材

多層材料

半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)

その他新材料

EUV材料、三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料等

無機コロイド

スノーテックス

研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板

オルガノゾル・モノマーゾル

電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤

オイル&ガス材料

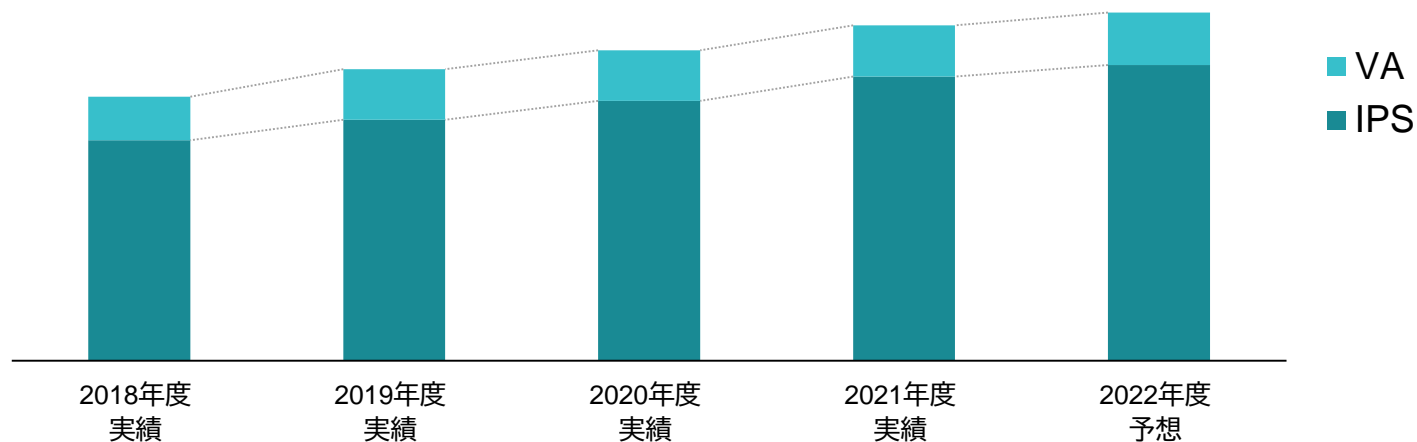
シェールオイル・ガス採掘効率向上材

- ディ스플레이材料は、2021年度下期で9%増収、業績予想比で上ぶれ、2022年度年間で4%増収予想
- 半導体材料は、2021年度下期で23%増収、業績予想通りの着地、2022年度年間で20%増収予想
- 無機コロイドは、2021年度下期で5%増収、業績予想比で上ぶれ、2022年度年間で4%増収予想

主要製品	2021年 実績						2022年 予想			
	前年同期比					業績予想比 (2022年2月作成 予想値は非開示)	前年同期比			
	上期	3Q	4Q	下期	年間		上期	下期	年間	
サンエバー	+7%	+2%	+15%	+8%	+8%	上ぶれ	+4%	+3%	+4%	
ディスプレイ材料合計	+7%	+2%	+16%	+9%	+8%	上ぶれ	+5%	+3%	+4%	
ARC®	KrF (ARC®)	+22%	+25%	+17%	+21%	+22%	上ぶれ	+11%	+9%	+10%
	ArF (ARC®)	+21%	+20%	+25%	+22%	+22%	下ぶれ	+18%	+20%	+19%
ARC®小計	+22%	+22%	+25%	+23%	+22%	予想通り	+19%	+18%	+18%	
その他半導体材料合計※	+17%	+14%	+33%	+23%	+20%	下ぶれ	+17%	+29%	+23%	
半導体材料合計	+20%	+20%	+27%	+23%	+22%	予想通り	+19%	+21%	+20%	
スノーテックス	+19%	+10%	-4%	+3%	+10%	下ぶれ	+3%	+9%	+6%	
オルガノゾル・モノマーゾル	+26%	+7%	+44%	+24%	+25%	上ぶれ	+3%	-3%	-1%	
オイル&ガス材料	+1,093%	-71%	+55%	-43%	0%	上ぶれ	+36%	-8%	+12%	
無機コロイド合計	+23%	+6%	+4%	+5%	+13%	上ぶれ	+4%	+5%	+4%	
機能性材料セグメント合計	+14%	+9%	+19%	+14%	+14%	上ぶれ	+10%	+10%	+10%	

※ 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料等

IPSモードでの販売が増加。IPSモードの中では特に光IPS（IPS液晶用光配向材）が伸長



### 主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター

### モード別売上高成長率

	2021年度 年間実績		2022年度 年間予想
	前年同期比	業績予想比 (2022年2月作成 予想値は非開示)	前年同期比
VA	増収(+0 ~ +9%)	下ぶれ	増収(+0 ~ +9%)
IPS	増収(+0 ~ +9%)	上ぶれ	増収(+0 ~ +9%)
サンエバー合計(TN*含む)	+8%	上ぶれ	+4%

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

【下期】売上高+51億円、営業利益+28億円、固定費増加合計6億円

【年間】売上高+101億円、営業利益+53億円、固定費増加合計14億円(共通費用増加1億円含む)

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					前年同期比		
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	4Q	下期	年間
売上高	346	192	178	370	716	396	209	212	421	817	+34	+51	+101
営業利益	107	63	54	117	224	132	76	69	145	277	+15	+28	+53

【下期】増収・増益 【年間】増収・増益

ディスプレイ

光IPS 【下期】【年間】ともに増収(非スマホ好調)

ラビングIPS 【下期】【年間】ともに減収

VA 【下期】【年間】ともに増収

【下期】固定費減少1億円

【年間】固定費横ばい

半導体

【下期】増収・増益 【年間】増収・増益

ARC® 【下期】【年間】ともに増収

その他 【下期】【年間】ともに増収  
(多層材料・その他新材料※増収)

【下期】市場全般好調、固定費増加5億円

【年間】市場全般好調、固定費増加8億円

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計

無機コロイド

【下期】増収・減益 【年間】増収・減益

スノーテックス 【下期】【年間】ともに増収  
(一般用途・研磨材ともに増収)

オルガノ・モノマーゾル 【下期】【年間】ともに増収

オイル&ガス材料 【下期】減収【年間】横ばい

【下期】固定費増加2億円

【年間】固定費増加5億円

【4Q】売上高+4億円、営業利益+4億円、  
固定費下ぶれ合計2億円(増益要因)(共通費用下ぶれ1億円含む)

(億円)

	2021年度 予想 (2022年2月発表)			2021年度 実績			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
売上高	605	208	813	605	212	817	+4
営業利益	208	65	273	208	69	277	+4

【4Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

ディスプレイ

- 光IPS 売上高上ぶれ(スマホ、非スマホ好調)
- ラビングIPS 売上高予想通り
- VA 売上高下ぶれ

固定費下ぶれ1億円(増益要因)

【4Q】売上高予想通り・営業利益下ぶれ

半導体

- ARC® 売上高予想通り
  - その他 売上高下ぶれ  
(多層材料下ぶれ・その他新材料※予想通り)
- 固定費上ぶれ1億円(減益要因)

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計

【4Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

無機コロイド

- スノーテックス 売上高下ぶれ(一般用途・研磨材ともに下ぶれ)
  - オルガノ・モノマーゾル 売上高上ぶれ
  - オイル&ガス材料 売上高上ぶれ
- 固定費下ぶれ1億円(増益要因)

【年間】売上高+82億円、営業利益+28億円、固定費増加合計18億円(共通費用増加3億円含む)

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	200	196	396	421	817	212	222	434	465	899	+12	+26	+38	+44	+82
営業利益	70	62	132	145	277	71	74	145	160	305	+1	+12	+13	+15	+28

## 【年間】増収・減益

光IPS 増収(非スマホ好調)

ラビングIPS 横ばい

VA 増収

固定費増加5億円

ディス  
プレイ

## 【年間】増収・増益

ARC® 増収

その他 増収(多層材料・その他新材料※増収)

市場全般好調、固定費増加9億円

※ その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材料の合計

半導体

## 【年間】増収・増益

スノーテックス 増収(一般用途・研磨材ともに増収)

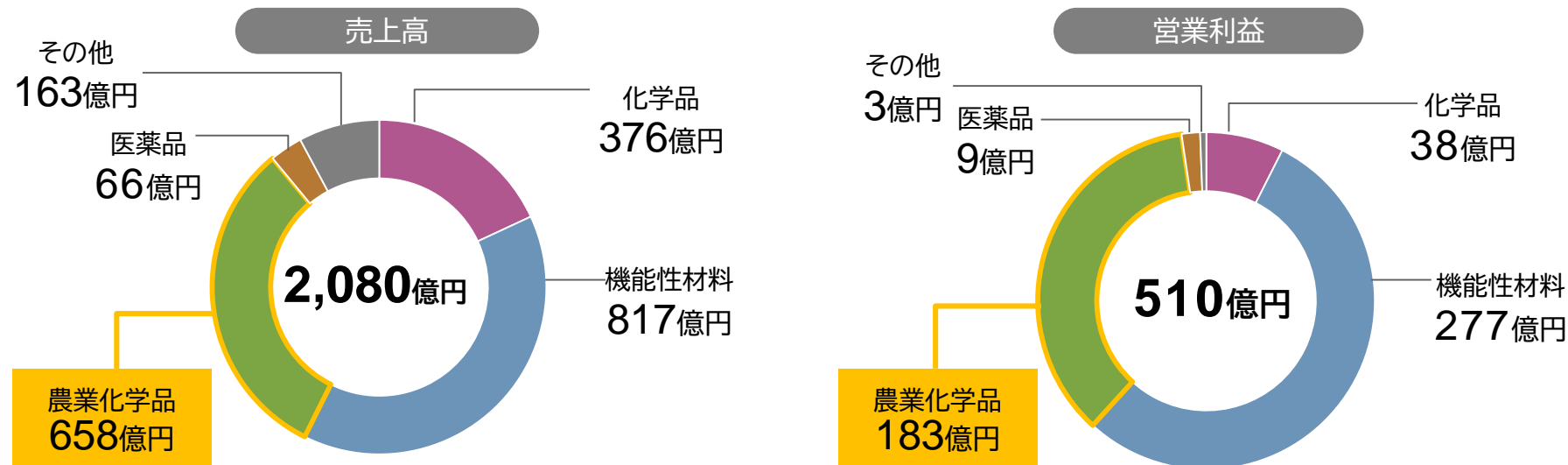
オルガノ・モノマーゾル 減収

オイル&ガス材料 増収

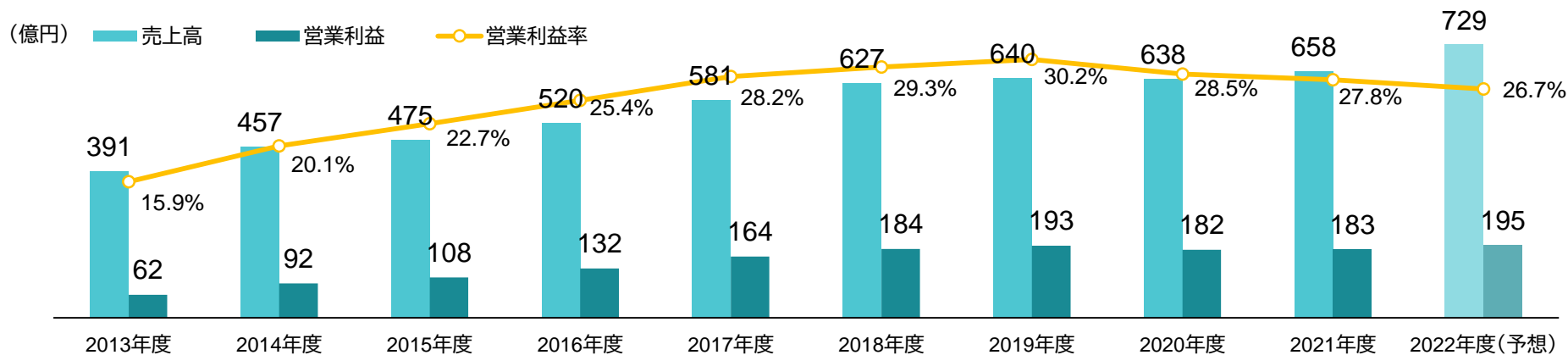
固定費増加1億円

無機  
コロイド

2021年度セグメント別業績



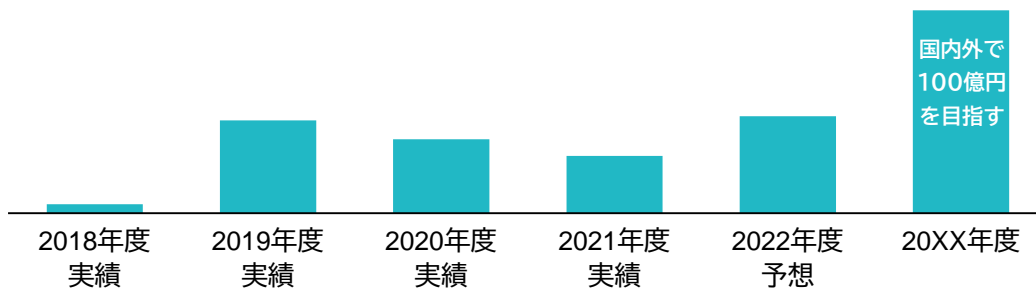
農業化学品セグメント業績推移



■ 2021年度下期で7%増収、業績予想比で下ぶれ、2022年度年間で11%増収予想

主要製品名 (2021年度 売上高順)	種類	2021年度 実績				2022年度 予想		
		前年同期比			業績予想比 (2022年2月作成 予想値は非開示)	前年同期比		
		上期	下期	年間		上期	下期	年間
ラウンドアップ※1	除草剤	+4%	+3%	+3%	下ぶれ	+11%	+5%	+8%
フルララネル	動物薬	-9%	-6%	-8%	下ぶれ	+31%	+13%	+23%
アルテア	除草剤	-28%	-3%	-9%	下ぶれ	+18%	+2%	+5%
タルガ	除草剤	+20%	+46%	+34%	上ぶれ	-7%	-7%	-7%
ダイセン	殺菌剤	-	+96%	+203%	上ぶれ	+19%	+3%	+9%
パーミット	除草剤	+31%	-9%	-3%	上ぶれ	+182%	-54%	-4%
ライメイ	殺菌剤	+13%	+12%	+12%	上ぶれ	+50%	+54%	+53%
グレーシア	殺虫剤	-64%	+17%	-22%	下ぶれ	+204%	+30%	+69%
クインテック	殺菌剤	+115%	+27%	+46%	下ぶれ	-56%	+5%	-14%
セグメント合計※2	-	-3%	+7%	+3%	下ぶれ	+23%	+3%	+11%

■ グレーシア売上高



参考

- 国内農薬販売 第1位  
(2019年10月～2020年9月)

[ラウンドアップの現状説明会資料](#)   
(2020年1月22日公表)

※1 ラウンドアップALは、2021年度のラウンドアップ売上高全体の23%を占める

※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む



【下期】売上高+27億円、営業利益+9億円、固定費増加6億円、在庫変動影響6億円(増益要因)

(会計方針の変更による売上高増加+8億円、営業利益増加+8億円)

【年間】売上高+20億円、営業利益+1億円、固定費増加12億円(うちダイセン償却費増加2億円)、在庫変動影響12億円(増益要因)

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					前年同期比		
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	4Q	下期	年間
売上高	257	63	318	381	638	250	119	289	408	658	-29	+27	+20
営業利益	78	-13	117	104	182	70	31	82	113	183	-35	+9	+1

主要製品		
ラウンドアップ(除草剤)	【下期】増収(ML:2021年12月より値上げ実施により増収) 【年間】増収(ML:2021年12月より値上げ実施により増収、AL:販売好調)	
フルララネル(動物薬)	【下期】【年間】ともに減収(原薬:顧客在庫調整、2022年度へ一部出荷後ろ倒しのため減収、ロイヤリティ:増収)	
アルテア(除草剤)	【下期】減収(国内:横ばい、輸出:減収) 【年間】減収(国内・輸出ともに減収)	
タルガ(除草剤)	【下期】【年間】ともに増収(インド向け混合剤上市、ブラジル・欧州での需要増)	
ダイセン(殺菌剤)	【下期】【年間】ともに増収(20年度4Q販売開始)	
パーミット(除草剤)	【下期】【年間】ともに減収	
ライメイ(殺菌剤)	【下期】【年間】ともに増収(輸出増収)	
グレーシア(殺虫剤)	【下期】増収(国内:流通在庫減少、防除ニーズ高により増収、輸出:新規上市により増収) 【年間】減収(国内・輸出ともに減収)	
クインテック(殺菌剤)	【下期】【年間】ともに増収(20年度4Qからの後ろ倒し)	

※ 2021年度実績は会計方針の変更影響を含む(フルララネルロイヤリティ収入計上時期変更による増減・農薬売上値引コスト増減)(p72参照)

【4Q】売上高-7億円、営業利益-10億円、在庫変動影響2億円(増益要因)

(億円)

	2021年度 予想 (2022年2月発表)			2021年度 実績			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
売上高	369	296	665	369	289	658	-7
営業利益	101	92	193	101	82	183	-10

主要製品	製品名	変動要因
	ラウンドアップ(除草剤)	売上高下ぶれ(ML・AL:下ぶれ)
	フルララネル(動物薬)	売上高下ぶれ(原薬:2022年度へ一部出荷後ろ倒しにより下ぶれ、ロイヤリティ:上ぶれ)
	アルテア(除草剤)	売上高下ぶれ
	タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(インド向け混合剤の拡販、3Qからの一部出荷後ろ倒し)
	ダイセン(殺菌剤)	売上高上ぶれ
	パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ
	ライメイ(殺菌剤)	売上高上ぶれ(3Qからの出荷後ろ倒し)
	グレーシア(殺虫剤)	売上高下ぶれ(国内:流通在庫減少により上ぶれ、輸出:流通在庫調整のため下ぶれ)
	クインテック(殺菌剤)	売上高下ぶれ(3Qへ出荷前倒し)

※ 2021年度実績・予想は会計方針の変更影響を含む(フルララネルロイヤリティ収入計上時期変更による増減・農薬売上値引コスト増減)(p72参照)

【年間】売上高+71億円、営業利益+12億円、固定費増加18億円(うちNBR増加4億円)、在庫変動影響6億円(減益要因)

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	134	116	250	408	658	172	135	307	422	729	+38	+19	+57	+14	+71
営業利益	41	29	70	113	183	57	38	95	100	195	+16	+9	+25	-13	+12

主要製品

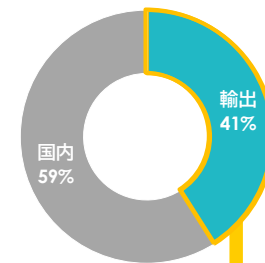
ラウンドアップ(除草剤)	増収(ML・ALともに価格上昇、数量増)
フルララネル(動物薬)	増収(原薬出荷の2021年度からの後ろ倒し、顧客在庫調整終了、ロイヤリティ堅調)
アルテア(除草剤)	増収(国内・輸出ともに増収)
タルガ(除草剤)	減収
ダイセン(殺菌剤)	増収(国内・輸出ともに増収)
パーミット(除草剤)	減収
ライメイ(殺菌剤)	増収(欧州での混合剤上市により輸出増収)
グレーシア(殺虫剤)	増収(国内:流通在庫解消により増収、輸出:インドでの拡販および韓国での販売回復により増収)
クインテック(殺菌剤)	減収

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	パルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバソン	殺虫剤	導入	米国デュボン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AIⅡ、2018年AIⅢ上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社*1向けにプラバクト原薬として出荷開始
2014	プラバクト*2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイスシンジェンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ビレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト*2	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイカや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2025	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

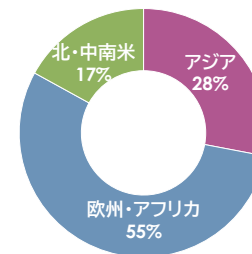
既存製品

新製品・パイプライン

農業化学品セグメントの輸出比率(2021年度実績)\*3



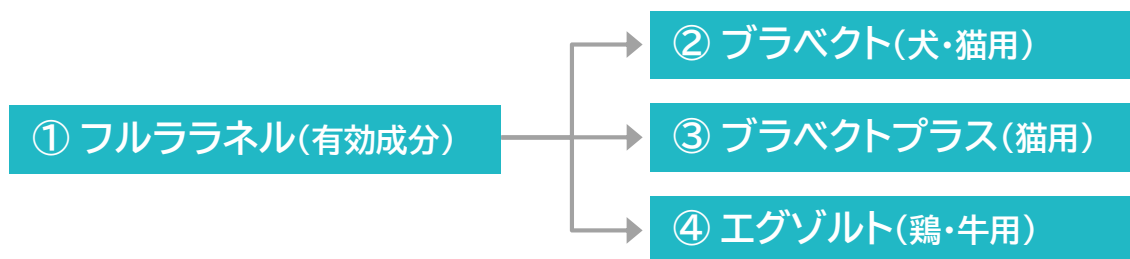
- 地域別分布



新製品群のピーク時売上高目標合計  
**310**億円

\*1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称    \*2 プラバクト・エグゾルト:MSD社の販売製品名    \*3 フルララネルを含める

当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクトシリーズ・エグゾルトは現在100か国以上で販売中



### ① フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト・エグゾルトの有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
  - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
  - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

### ② ブラベクト(BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
  - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
  - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
  - (猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
  - (犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

### ③ ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け内外部寄生虫スポットオン合剤
  - 2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

### ④ エグゾルト(EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
  - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
  - 2022年3月ブラジル販売承認

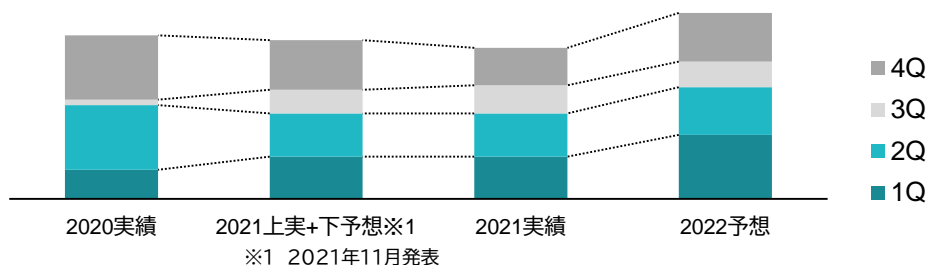
※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称    ※2 クリイロコイタマダニは8週間

## 当社のフルララネル売上高の構成

MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

## 2019～2022年度 四半期別売上高推移

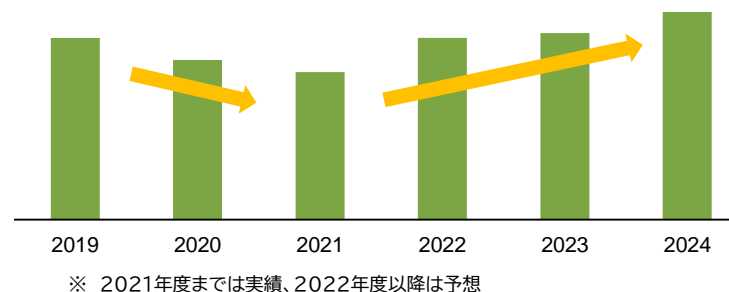
(RR収入含む)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にともない、2021年度からは各四半期に計上されている(p72参照)

## 2019～2024年度 売上高推移イメージ

(RR収入含む)



- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しもあり、大幅増収を計画。想定為替レートは115円/ドル
- ・2023年度以降の想定為替レートは110円/ドル
- ・新中計2027年度(p60参照)は、国別の特許の延長・失効の予想(p45参照)を織り込み、新規開発剤上市に伴う販売増は織り込んでいない

## ブラバクトの拡大に向けたMSD社の開発状況

ペット向けの新たな内外外部寄生虫薬、家畜向け経皮投与剤等を開発中

2021年5月発表 2020年度決算説明資料から変更なし。剤の買収・導入による製品ポートフォリオの拡充を進める

クインテック(キノキシフェン)

- クインテックはキノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2019年11月 米国コルテバ社より事業を買収
- 2019年12月 販売開始
- 果樹や野菜用の殺菌剤として流通。主な市場は米国
- 果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

ダイセン(マンゼブ)

- ダイセンはマンゼブ(有効成分)を含む製品群中の主要製品
- 2020年12月 米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
- 2021年1月 国内販売開始
- 果樹(特にりんご、かんきつ)・野菜用の保護殺菌剤として流通。耐雨性に優れる

- 監査後無形固定資産の償却期間は、資産の種類別に5年・16年(定額法)(加重平均15.6年)で確定(監査前は5年で仮計算)

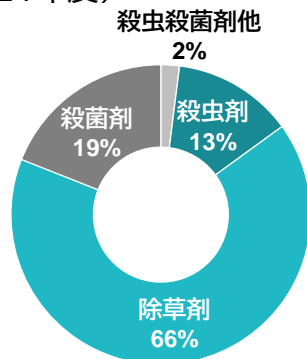
ダイセン収益予想

(億円)

年度	営業利益	償却前営業利益
2020	3	4
2021	7	11
2022-26 累計	36	53

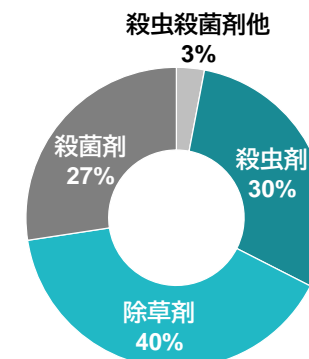
農薬製品ポートフォリオ

当社の農薬売上高構成比(2021年度)



【参考】

グローバル農薬市場売上高構成比(2020年1-12月)





グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指し、新たな原体生産拠点を設立。  
2022年度よりNBRを連結子会社に追加。  
工場建設はコロナ禍にもかかわらず、ほぼ予定通り進捗。

## Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農薬(グレーシア、ライメイ、クインテック等)原体を製造し、 当社へ販売
従業員数	150-200名(2022年想定)
工場稼働予定	2022年度2Q
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

## Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要

設立	1989年(インド大手農薬製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンベイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族74.8%
損益状況	2020年度売上高10,920百万ルピー、税引後利益1,639百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana) ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Insecticides Ltd (BIL)がタルガ、パルサー、パーミットをインド国内で販売

## 資金計画

(億円)

設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

## 当社連結営業利益への貢献予想(概算)

(億円)

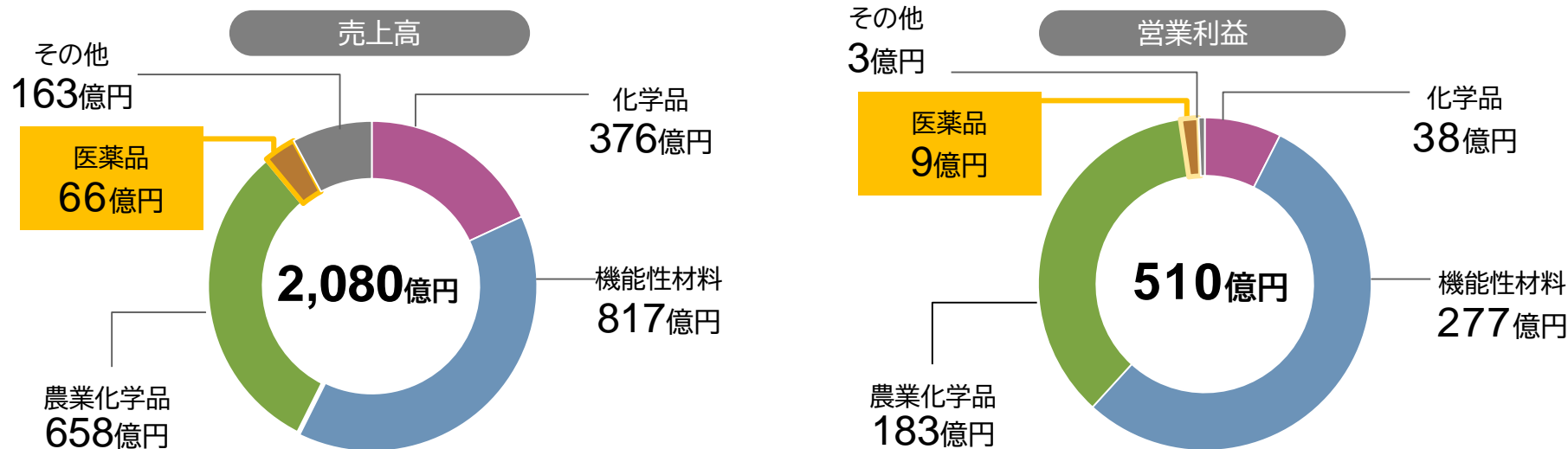
年度	2021	2022	2023	2024	2025
営業利益	-	-4	10	24	29

## 当社メリット

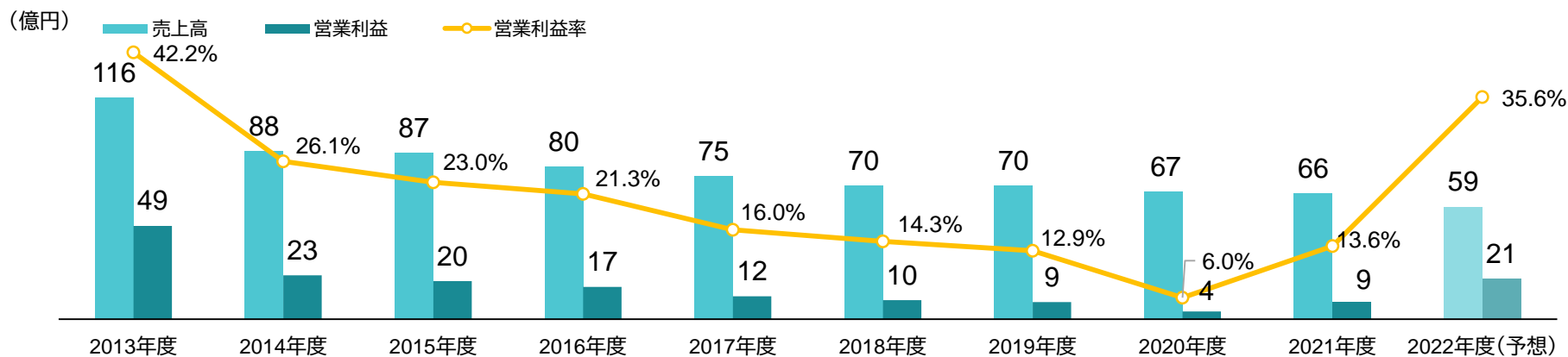
- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減



2021年度セグメント別業績



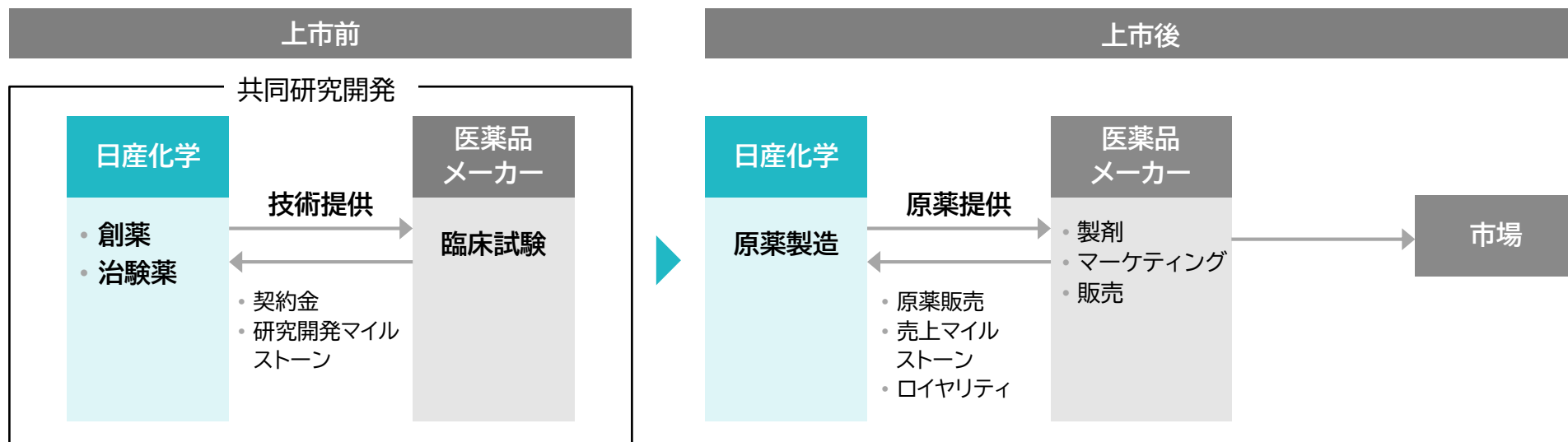
ヘルスケアセグメント業績推移※



※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2021年度数字は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

医療用医薬品の創薬・開発に特化し販売部門を有さないユニークなビジネスモデルを確立

## 創薬ビジネスモデル



## リバロ

2003年に興和から上市した高コレステロール血症治療薬。現在、世界30か国で販売中

(億円)

### 売上高の推移

	2013年度 <sup>※1</sup>	2020年度 <sup>※2</sup>	2021年度	2022年度 予想	2024年度 新中計	2027年度 新中計
国内末端 (薬価ベース)	526	120	105	-	-	-
当社原薬 (国内外合計)	102	28	23	21	11	8
前年同期比成長率	-2%	-30%	-17%	-10%	(2021年度比) -54%	(2021年度比) -64%
うち国内	-2%	+6%	+30%	-5%	(〃) -52%	(〃) -65%
うち海外	-1%	-35%	-28%	-12%	(〃) -55%	(〃) -63%

※1 2013年8月 国内物質特許満了 ※2 2020年8月 欧州で市場独占期間満了

課題解決型受託事業として、前臨床から商業生産まで新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託。  
特に近年は高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心に新規案件獲得に注力

## 高付加価値ジェネリック原薬の販売状況

販売開始年度	原薬	用途
2016	マキサカルシトール	尋常性乾癬／二次性副甲状腺機能亢進症治療
2017	エルデカルシトール	骨粗しょう症治療

## ファインテック業績推移

### ■ 売上高の推移（2013～2027年度）

(億円)

2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 予想	2024 新中計	2027 新中計
12	18	23	24	25	26	29	38	42	38	57	85

### ■ 前年同期比 売上高成長率（2021～2027年度）

2021 予想 <sup>※</sup>			2021 実績			2022 予想			2024 新中計 (2021年度比)	2027 新中計 (2021年度比)
上期実績	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間		
+29%	-12%	+4%	+29%	-2%	+11%	-6%	-12%	-9%	+36%	+104%

※ 2021年11月発表

## 新中期経営計画の実現に向け、事業領域の選択と集中を加速

注力する事業領域	主な取り組み
ヘルスケア	核酸医薬 <ul style="list-style-type: none"> <li>当社独自の核酸創薬基盤技術を活用し、資源の8割を投入</li> <li>製薬各社との共同創薬の着実な推進及びルクサナバイオテック株式会社との戦略的提携（核酸標的7テーマ確保）</li> </ul>
	低分子医薬 創薬ベンチャーとの協業（10から3テーマに）、AI活用（既存創薬からの転換）
	医療材料 生体界面制御材料、化粧品材料等
ファインテック	既存ビジネスモデルの強化に加え、共同開発も指向（ペプチド等）

## 資源投入

	(人、概数)			
	2021実績	2022予想	2024新中計	2027新中計
研究者数	75	15	20	20
ヘルスケア	65	5	5	5
ファインテック	10	10	15	15
参考 企画本部ヘルスケア研究者数	35	90	85	90

	(億円)			
	2021実績	2022予想	2024新中計	2027新中計
研究開発費	21.3	7.4	10.3	11.2
ヘルスケア	18.0	3.1	5.2	5.3
ファインテック	3.3	4.3	5.1	5.9
参考 企画本部移管影響 (B)	-	14.5	12.6	12.7

## 計数計画

	(億円)				
	2021実績	2022予想	2024新中計	2027新中計	
売上高	66.3	59.4	72.3	114.8	
ヘルスケア	既存製品	24.2	21.3	11.3	9.0
	新製品	0.4	0.0	4.4	20.8
ファインテック	既存製品	41.7	38.1	50.6	57.9
	新製品	0.0	0.0	6.0	27.1
営業利益 (A)	9.5	20.9	21.5	42.9	
ヘルスケア	-10.7	5.3	-7.0	-1.0	
ファインテック	20.2	15.6	28.5	43.8	
参考 企画本部移管前の実質営業利益 (A)-(B)	9.5	6.4	8.9	30.2	

【下期】売上高-3.4億円、営業利益+1.7億円 【年間】売上高-0.2億円、営業利益+5.9億円

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					前年同期比		
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	4Q	下期	年間
売上高	30.2	14.0	22.3	36.3	66.5	33.4	19.2	13.7	32.9	66.3	-8.6	-3.4	-0.2
創薬	15.3	5.8	7.7	13.5	28.8	14.1	4.8	5.7	10.5	24.6	-2.0	-3.0	-4.2
ファインテック	14.9	8.2	14.6	22.8	37.7	19.3	14.4	8.0	22.4	41.7	-6.6	-0.4	+4.0
営業利益	0.3	-0.4	3.7	3.3	3.6	4.5	4.4	0.6	5.0	9.5	-3.1	+1.7	+5.9
創薬	-3.6	-3.6	-2.1	-5.7	-9.3	-4.4	-3.4	-2.9	-6.3	-10.7	-0.8	-0.6	-1.4
ファインテック	3.9	3.2	5.8	9.0	12.9	8.9	7.8	3.5	11.3	20.2	-2.3	+2.3	+7.3

※ p22,p23,p24,p81,p82,p83では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

### 【下期】減収・減益 【年間】減収・減益

リバロ

【下期】減収(国内・輸出とも減収)  
【年間】減収(国内増収、輸出減収)

【下期】在庫変動影響1億円(増益要因)

創薬

### 【下期】減収・増益 【年間】増収・増益

ファインテック

【下期】出荷時期のずれにより減収  
【年間】ジェネリック原薬好調

【下期】棚卸評価損益1億円(増益要因)、  
在庫変動影響2億円(増益要因)  
【年間】棚卸評価損益2億円(増益要因)、  
在庫変動影響2億円(増益要因)

ファイン  
テック

## 【4Q】売上高+2.5億円、営業利益+3.1億円

(億円)

	2021年度 予想 (2022年2月発表)			2021年度 実績			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q
売上高	52.6	11.2	63.8	52.6	13.7	66.3	+2.5
創薬	18.9	3.8	22.7	18.9	5.7	24.6	+1.9
ファインテック	33.7	7.4	41.1	33.7	8.0	41.7	+0.6
営業利益	8.9	-2.5	6.4	8.9	0.6	9.5	+3.1
創薬	-7.8	-4.6	-12.4	-7.8	-2.9	-10.7	+1.7
ファインテック	16.7	2.1	18.8	16.7	3.5	20.2	+1.4

※ p22,p23,p24,p81,p82,p83では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

創薬

## 【4Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ

リバロ

売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出予想通り)

ファイン  
テック

## 【4Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ

ファインテック

ジェネリック原薬上ぶれ

【年間】売上高-6.9億円、営業利益+11.4億円

(億円)

	2021年度 実績					2022年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	10.7	22.7	33.4	32.9	66.3	15.9	14.2	30.1	29.3	59.4	+5.2	-8.5	-3.3	-3.6	-6.9
ヘルスケア	6.3	7.8	14.1	10.5	24.6	7.9	3.9	11.8	9.5	21.3	+1.6	-3.9	-2.3	-1.0	-3.3
ファインテック	4.4	14.9	19.3	22.4	41.7	8.0	10.3	18.3	19.8	38.1	+3.6	-4.6	-1.0	-2.6	-3.6
営業利益	-1.9	6.4	4.5	5.0	9.5	6.2	4.6	10.8	10.1	20.9	+8.1	-1.8	+6.3	+5.1	+11.4
ヘルスケア	-2.9	-1.5	-4.4	-6.3	-10.7	3.3	0.6	3.9	1.4	5.3	+6.2	+2.1	+8.3	+7.7	+16.0
ファインテック	1.0	7.9	8.9	11.3	20.2	2.9	4.0	6.9	8.7	15.6	+1.9	-3.9	-2.0	-2.6	-4.6

※ p22,p23,p24,p81,p82,p83では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

## 【年間】減収・増益

ヘルスケア

リバロ

減収(国内・輸出とも減収)

固定費減少18億円(組織改定による影響含む)

## 【年間】減収・減益

ファイン  
テック

ファインテック

ジェネリック原薬出荷減

固定費増加2億円

## ■ 組織改定による利益影響(研究開発費)※1

(億円)

	2022年度 予想				
	1Q	2Q	上期	下期	年間
ヘルスケア	+3.4	+3.8	+7.2	+7.8	+15.0
ファインテック	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3	-0.5
セグメント計	+3.3	+3.7	+7.0	+7.5	+14.5

※1 プラス数値は増益要因

# Contents

01

2021年度通期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P20

04

前中計の振り返り、新中計Vista2027

P56

05

ESGトピックス

P62

06

参考資料

P71



# 2021年度実績と前中期経営計画 Stage II (2019年5月発表)の差異

■ 2021年度はコロナ禍であったにもかかわらず、中期経営計画における各数値目標を達成

## ■ 売上・損益の状況※1

(億円)

	2018年度 実績	2021年度 実績	2021年度 前中計	差異
		(A)	(B)	(A)-(B)
売上高	2,049	2,080	2,350	-270
営業利益	371	510	430	+80
経常利益	391	537	440	+97
当期純利益	294	388	330	+58
EPS(円/株)	197.67	271.88	230.00	+41.88
配当(円/株)	82	122	-	-
為替レート(円/ドル)	111	112	110	-
ナフサ(円/kl)	49,700	-	43,000	-
原油(JCC)(ドル/bbl)	-	77	64	-

(経営指標)

売上高営業利益率	18.1%	24.5%	18%以上	目標達成
ROE	16.6%	19.2%	16%以上	目標達成
配当性向	41.5%	44.9%	45%維持	目標達成
総還元性向	72.0%	75.6%	75%維持	目標達成

## ■ セグメント情報※1・2

(億円)

		2018年度 実績	2021年度 実績	2021年度 前中計	差異
			(A)	(B)	(A)-(B)
化学品	売上高	357	376	431	-55
	営業利益	30	38	51	-13
機能性材料	売上高	630	817	751	+66
	営業利益	150	277	173	+104
農業化学品	売上高	627	658	701	-43
	営業利益	184	183	211	-28
医薬品	売上高	70	66	75	-9
	営業利益	10	9	7	+2
卸売・その他・ 調整※3・4	売上高	365	163	392	-229
	営業利益	-3	3	-12	+15
合計	売上高	2,049	2,080	2,350	-270
	営業利益	371	510	430	+80

※1 2021実績:会計方針の変更による売上高減少229億円。セグメントでは「卸売・その他・調整」に反映(p5,p72参照)

※2 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※3 卸売:日星産業、その他・調整額:日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか

※4 企画本部の2021年度実績の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

# 2021年度実績と前中期経営計画 Stage II (2019年5月発表)の差異

## キャッシュ・フロー

(億円)

	2019-2021 年度合計	2019-2021 年度合計(概数)	差異
	実績(A)	前中計(B)	(A)-(B)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,173	1,150	+23
投資活動によるキャッシュ・フロー	-408	-450	+42
フリー・キャッシュ・フロー	765	700	+65
財務活動によるキャッシュ・フロー	-786	-750	-36
株主還元	-735	-700	-35
借入金返済	-42	-50	+8

(億円)

	2022年3月末 実績(A)	2022年3月末 前中計(B)	差異 (A)-(B)
期末現預金残高	347	300	+47
期末有利子負債残高	227	210	+17

## 資源配分

(億円)

(人、概数)

	研究開発費			設備投資			減価償却費			研究開発要員※2		
	2019-2021年 年度合計	2019-2021年 年度合計	差異	2019-2021年 年度合計	2019-2021年 年度合計	差異	2019-2021年 年度合計	2019-2021年 年度合計	差異	2021 年度	2021 年度	差異
	実績(A)	前中計(B)	(A)-(B)	実績(A)	前中計(B)	(A)-(B)	実績(A)	前中計(B)	(A)-(B)	実績(A)	前中計(B)	(A)-(B)
化学品	10	14	-4	103	147	-44	66	94	-28	5	10	-5
機能性材料	217	267	-50	122	178	-56	136	170	-34	200	210	-10
農業化学品	132	148	-16	158	82	+76	76	55	+21	90	95	-5
医薬品	70	71	-1	18	17	+1	16	18	-2	75	90	-15
その他※1	68	80	-12	24	23	+1	17	31	-14	100	75	+25
合計	497	580	-83	425	447	-22	311	368	-57	470	480	-10

※1 企画本部・卸売・その他・調整

※2 研究開発要員は単体ベース、概数

# 2021年度実績と前中期経営計画 Stage II (2019年5月発表)の差異

(億円)

		2021年度 実績(A)	2021年度 前中計(B)	差異 (A)-(B)	差異要因
化学品	売上高	376	431	-55	ファインケミカル 下ぶれ [上ぶれ] テピック一般 [下ぶれ] テピック電材、環境化学品、ファインオキシコール 基礎化学品 下ぶれ [上ぶれ] 尿素・アドブルー [下ぶれ] メラミン国内・輸出、高純度硫酸、硝酸製品
	営業利益	38	51	-13	ファインケミカル下ぶれ、基礎化学品上ぶれ [プラス要因] 固定費下ぶれ [マイナス要因] 売上高下ぶれ、原燃料コスト上ぶれ、運送費上ぶれ
機能性材料	売上高	817	751	+66	ディスプレイ 上ぶれ [上ぶれ] 光IPS [下ぶれ] ラビングIPS、VA、TN、その他ディスプレイ材料 半導体 上ぶれ [上ぶれ] KrF、ArF、多層材料、EUV材料 [下ぶれ] 三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料 無機コロイド 下ぶれ [上ぶれ] スノーテックス一般・研磨 [下ぶれ] オルガノゾル・モノマーゾル、オイル&ガス材料
	営業利益	277	173	+104	ディスプレイ上ぶれ、半導体上ぶれ、無機コロイド下ぶれ [プラス要因] 売上高上ぶれ、固定費(ディスプレイ、半導体、無機コロイド)下ぶれ
農業化学品	売上高	658	701	-43	[上ぶれ] ダイセン、クインテック、タルガ、パーミット [下ぶれ] フルララネル、グレーシア、ラウンドアップ(ML計画通り、AL下ぶれ)、 ライメイ、アルテア
	営業利益	183	211	-28	[マイナス要因] 売上高下ぶれ、固定費上ぶれ
医薬品	売上高	66	75	-9	創薬 上ぶれ [上ぶれ] リバロ国内 [下ぶれ] リバロ輸出、一時金 ファインテック 下ぶれ [下ぶれ] ジェネリック原薬、ペプチド受託生産
	営業利益	9	7	+2	創薬上ぶれ、ファインテック下ぶれ [プラス要因] 固定費下ぶれ [マイナス要因] 売上高下ぶれ
卸売・ その他・ 調整	売上高	163	392	-229	卸売 上ぶれ+39 その他国内子会社 下ぶれ-13 調整額計算 -255(うち、会計方針の変更による売上高への影響-228(代理人取引)※) ※p72(1)参照
	営業利益	3	-12	+15	卸売 上ぶれ+6 その他国内子会社 下ぶれ-1 調整額計算 上ぶれ+10
合計	売上高	2,080	2,350	-270	
	営業利益	510	430	+80	

# 新中期経営計画 Vista2027(2022-2027年度)(2022年5月発表)

- 新中期経営計画では、売上高営業利益率20%以上、ROE18%以上を目標に掲げる
- 引き続き積極的な株主還元を重視。配当性向目標を45%から55%へ引き上げる

## 売上・損益の状況

(億円)

	2021年度	2022年度	2024年度	2027年度
	実績	予想	新中計	新中計
売上高	2,080	2,190	2,550	2,850
営業利益	510	535	585	670
経常利益	537	541	595	680
当期純利益	388	396	440	500
EPS(円/株)	271.88	280.90	317.64	371.67
配当(円/株)	122	154	-	-
為替レート(円/ドル)	112	115	110	110
原油(JCC)(ドル/bbl)	77	88	88	88

(経営指標)

売上高営業利益率	24.5%	24.4%	20%以上
ROE	19.2%	18.7%	18%以上
配当性向	44.9%	54.8%	55%維持
総還元性向	75.6%	67.4%	75%維持

## セグメント情報※1

(億円)

		2021年度	2022年度	2024年度	2027年度
		実績	予想	新中計	新中計
化学品	売上高	376	386	376	401
	営業利益	38	22	35	39
機能性材料	売上高	817	899	1,029	1,172
	営業利益	277	305	321	380
農業化学品	売上高	658	729	778	823
	営業利益	183	195	217	210
ヘルスケア※2	売上高	66	59	72	115
	営業利益	9	21	21	43
卸売・その他・調整※3・4	売上高	163	117	295	339
	営業利益	3	-8	-9	-2
合計	売上高	2,080	2,190	2,550	2,850
	営業利益	510	535	585	670

※1 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※2 2022年4月に組織改定を実施。2021年度実績は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

※3 卸売：日星産業、その他・調整額：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか

※4 企画本部の2021年度実績、2022、2024、2027予想の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

## キャッシュ・フロー

(億円)

	2019-2021 年度合計	2022-2024 年度合計(概数)
	実績	新中計
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,173	1,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	-408	-550
フリー・キャッシュ・フロー	765	850
財務活動によるキャッシュ・フロー	-786	-900
株主還元	-735	-900
借入金返済	-42	0

(億円)

	2022年3月末 実績	2025年3月末 新中計(概数)
期末現預金残高	347	300
期末有利子負債残高	227	230

## 資源配分

(億円)

(人、概数)

	研究開発費		設備投資		減価償却費		研究開発要員 <sup>※3</sup>	
	2019-2021 年度合計	2022-2024 年度合計	2019-2021 年度合計	2022-2024 年度合計	2019-2021 年度合計	2022-2024 年度合計	2021年度	2024年度
	実績	新中計	実績	新中計	実績	新中計	実績	新中計
化学品	10	8	103	96	66	75	5	5
機能性材料	217	250	122	279	136	192	200	210
農業化学品	132	145	158	124	76	100	90	105
ヘルスケア <sup>※1</sup>	70	26	18	12	16	12	75	20
その他 <sup>※2</sup>	68	121	24	42	17	24	100	150
<b>合計</b>	<b>497</b>	<b>550</b>	<b>425</b>	<b>553</b>	<b>311</b>	<b>403</b>	<b>470</b>	<b>490</b>

※1 2022年4月に組織改定を実施。2019-2021年度合計実績は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

※2 企画本部・卸売・その他・調整

※3 単体ベース、概数

# Contents

01	2021年度通期 連結決算報告	P3
02	2022年度通期 業績予想	P8
03	セグメント概況	P20
04	前中計の振り返り、新中計Vista2027	P56
<b>05</b>	<b>ESGトピックス</b>	<b>P62</b>
06	参考資料	P71

E (環境)	2021年4月	ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
	2021年9月	「 <a href="#">統合レポート2021</a> 」を発行
	2022年5月	2050年にカーボンニュートラルへ 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp69参照)
S (社会)	2022年6月(予定)	メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
G (ガバナンス)	2019年4月	指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
	2019年6月	取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
	2021年6月	女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)
	2021年12月	「 <a href="#">コーポレートガバナンス報告書</a> 」を更新(取締役会のスキルマトリックスを含む)
	2022年5月 (決議予定)	役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬70%、業績報酬25%、株式報酬5%。 業績報酬25%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)

## Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2021年11月  
4年連続で構成銘柄に選定

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA

## FTSE

- 2021年7月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に2年連続選定
- 2022年4月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定



※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

FTSE Blossom  
Japan

FTSE4Good

## CDP

- 2021年12月  
水セキュリティにおいて「Aリスト」  
に3年連続選定



## 健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2022年3月  
6年連続認定



## S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2022年3月  
4年連続で構成銘柄に選定



## MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2021年12月 構成銘柄に選定

### 2022 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

## 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



## 東京証券取引所「企業価値向上表彰」

- 2020年1月  
表彰候補50社に2年連続選定



2027年の企業像実現のため、当社が取組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定  
取組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人々の暮らしに役立つ  
新たな価値の提供

- ▶ 日産化学サステナブル  
アジェンダ  
社会貢献製品・サービス  
55%以上維持

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

- ▶ 人材の確保・育成  
人材育成に関する社員意識調査  
肯定回答率  
65%以上
- ▶ ダイバーシティ推進  
研究所女性総合職比率 18%以上

▶▶▶3

レスポンスブル・ケアの  
継続的強化

- ▶ GHG排出削減目標  
2018年度比 30%以上減

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス

リスクマネジメント

コンプライアンスの強化

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な取り組み
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再生可能エネルギー拡大に貢献する材料の開発</li> <li>■ サーキュラーエコノミー実現に貢献する材料の開発</li> <li>■ 農薬散布量の削減</li> <li>■ リサイクル可能な包材の導入</li> <li>■ 排ガス除去材料の提供</li> <li>■ 浄化槽の殺菌・消毒剤の提供</li> <li>■ 油脂廃棄物削減を可能にする材料の提供</li> </ul>
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ データ通信の大容量化・高速化、センシングに貢献する材料の提供</li> </ul>
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食料生産の収量拡大と省力化を実現する農薬の提供</li> <li>■ 家畜の健康維持への貢献</li> </ul>
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 飲料水用殺菌消毒剤の提供</li> <li>■ ペット用動物薬原薬の提供</li> </ul>
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ジェネリック医薬品の提供</li> <li>■ 医薬品受託製造・サービスの提供</li> <li>■ 再生医療分野材料の開発</li> <li>■ 難治性疾患治療薬の開発</li> </ul>

コア技術の鍛錬と育成により、4事業を通じて、社会課題解決に貢献する製品・サービスを提供する

マテリアリティ要素	主な製品・サービス	2027年度目標 (2021年度比)
環境配慮型製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 二次電池材料</li> <li>■ 光電変換材料</li> <li>■ CCU/CCUS材料</li> <li>■ エコプロモート</li> <li>■ ラウンドノズル ULV5</li> <li>■ グリーンダイセン</li> <li>■ アドブルー®</li> <li>■ ハイライト</li> <li>■ ビーナソイルクリーン</li> </ul>	売上高 +10%
スマート社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ディ스플레이材料</li> <li>■ 半導体材料</li> <li>■ センサー材料</li> <li>■ 光配線材料</li> </ul>	売上高 +55%
食料問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ハイライト(飲料水用)</li> <li>■ フルララネル(ペット用)</li> </ul>	売上高 +15%
生活の質の向上への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 農薬</li> <li>■ フルララネル(家畜用)</li> </ul>	売上高 +15%
健康問題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マキサカルシトール他 ジェネリック医薬品</li> <li>■ 医薬品受託製造・サービス</li> <li>■ 核酸医薬品</li> <li>■ FCeMシリーズ</li> <li>■ prevelexシリーズ</li> </ul>	売上高 +5%
社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合		<b>日産化学サステナブルアジェンダ</b> <b>55% 以上維持</b>

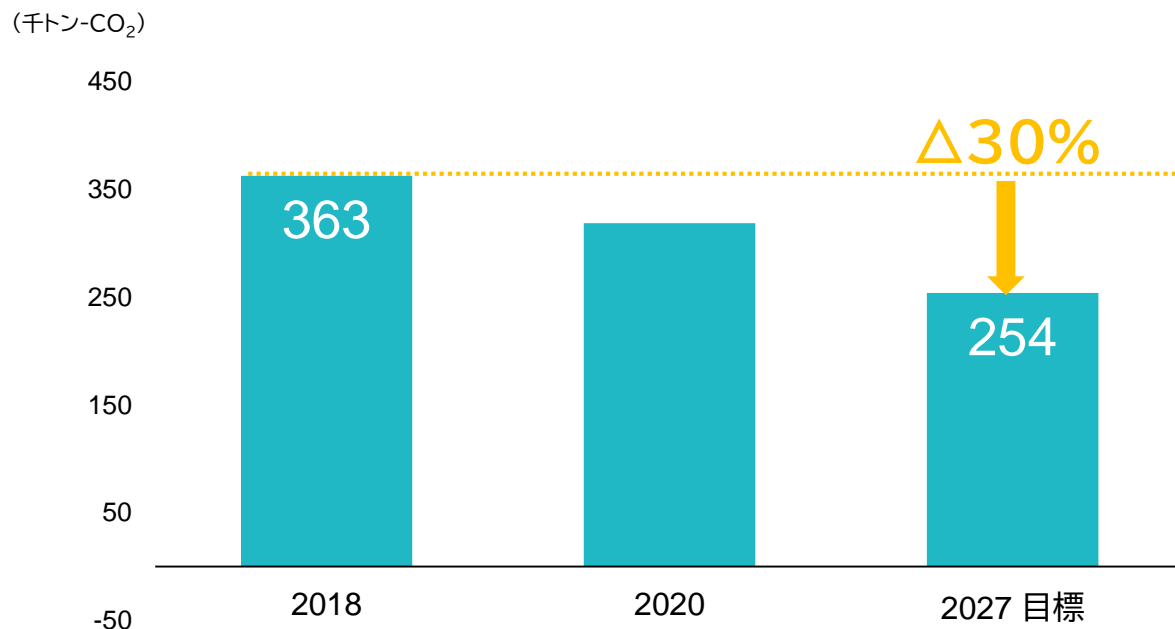
多様化・高度化する市場要求への対応力を高めるため、人的資本の充実など、事業基盤を強化する

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
研究開発力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIの活用による研究開発の迅速化</li> <li>コア技術の拡充</li> <li>オープンイノベーションの更なる活用</li> </ul>	特許出願数(2022~2027年度累計):2,500件
製品の品質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大クレームの未然防止</li> <li>品質不正・データ改ざんの未然防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大クレーム数 ゼロ件</li> <li>品質教育:受講率90%以上</li> </ul>
従業員の健康維持向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病対策の推進</li> <li>メンタルヘルス対策の実施</li> <li>社員への健康維持に関する啓蒙活動</li> <li>女性の健康づくり推進</li> </ul>	適正体重者※:70%以上 ※BMI(肥満度)指数:18.5-25.0
働きやすい職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークライフバランスの推進</li> <li>ハラスメント対策の実施</li> <li>育児・介護支援、男性育休取得推奨</li> </ul>	年次有給休暇取得率:80%以上
人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人事制度(役割等級制度)導入</li> <li>キャリア開発強化</li> <li>自己啓発支援プログラムの充実</li> </ul>	<b>人材育成に関する社員意識調査</b> <b>肯定回答率:65%以上</b>
ダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の活躍推進</li> <li>外国人留学生の採用</li> <li>障がい者雇用の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合職に占める女性比率:13%以上</li> <li><b>研究所女性総合職比率:18%以上</b></li> </ul>
公正な取引の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内研修会の開催、その他の教育啓蒙活動の実施</li> <li>コンプライアンス教育啓蒙活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>独禁法違反ゼロ</li> <li>外国公務員贈賄ゼロ</li> </ul>
サステナブル調達への推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル調達アンケート結果のフィードバック</li> <li>当社基準未達サプライヤーへの改善支援</li> </ul>	当社基準未達サプライヤーへの改善支援:90%以上
気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害発生時における事業活動のレジリエンス維持向上</li> </ul>	経常利益50%を占める製品のBCP更新整備

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、GHG排出量の削減を中心にレスポンシブル・ケアに継続的に取り組む

マテリアリティ要素	主な取り組み	2027年度目標
気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ GHG排出量の削減</li> </ul>	GHG排出量: 2018年度比30%削減 (2030年度目標を3年前倒し)
労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 労働安全マネジメントの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 休業災害ゼロ</li> <li>■ 労災件数: 2020年度比半減</li> </ul>
生物多様性への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生物多様性保全活動の推進</li> </ul>	日産化学本社工場におけるバイオパーク設置・運営
化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 化学物質使用に関する法令遵守</li> </ul>	重大法令違反ゼロ継続
産業廃棄物・汚染物質の排出削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 産業廃棄物・汚染物質最終処分量の削減</li> </ul>	日産化学本社工場での最終処分割合削減 (2020年度比)
保安・防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保安防災マネジメントの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 火災・爆発・外部漏洩ゼロ</li> <li>■ 保安事故ゼロ</li> </ul>

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する



## 他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO<sub>2</sub>)

年度	2011	2018	2019	2020
当社実績	448	363	327	318
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581

## Vista2027における取り組み

- 硝酸プラントからのN<sub>2</sub>O排出ゼロ  
(投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

# Contents

01

2021年度通期 連結決算報告

P3

02

2022年度通期 業績予想

P8

03

セグメント概況

P20

04

前中計の振り返り、新中計Vista2027

P56

05

ESGトピックス

P62

● 06

参考資料

P71

1. 方針の変更 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用
2. 適用時期 2021年4月1日より
3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

## PLへの影響額(前年同期比) (億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

### (1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず</li> <li>■ 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除</li> </ul>

### (2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

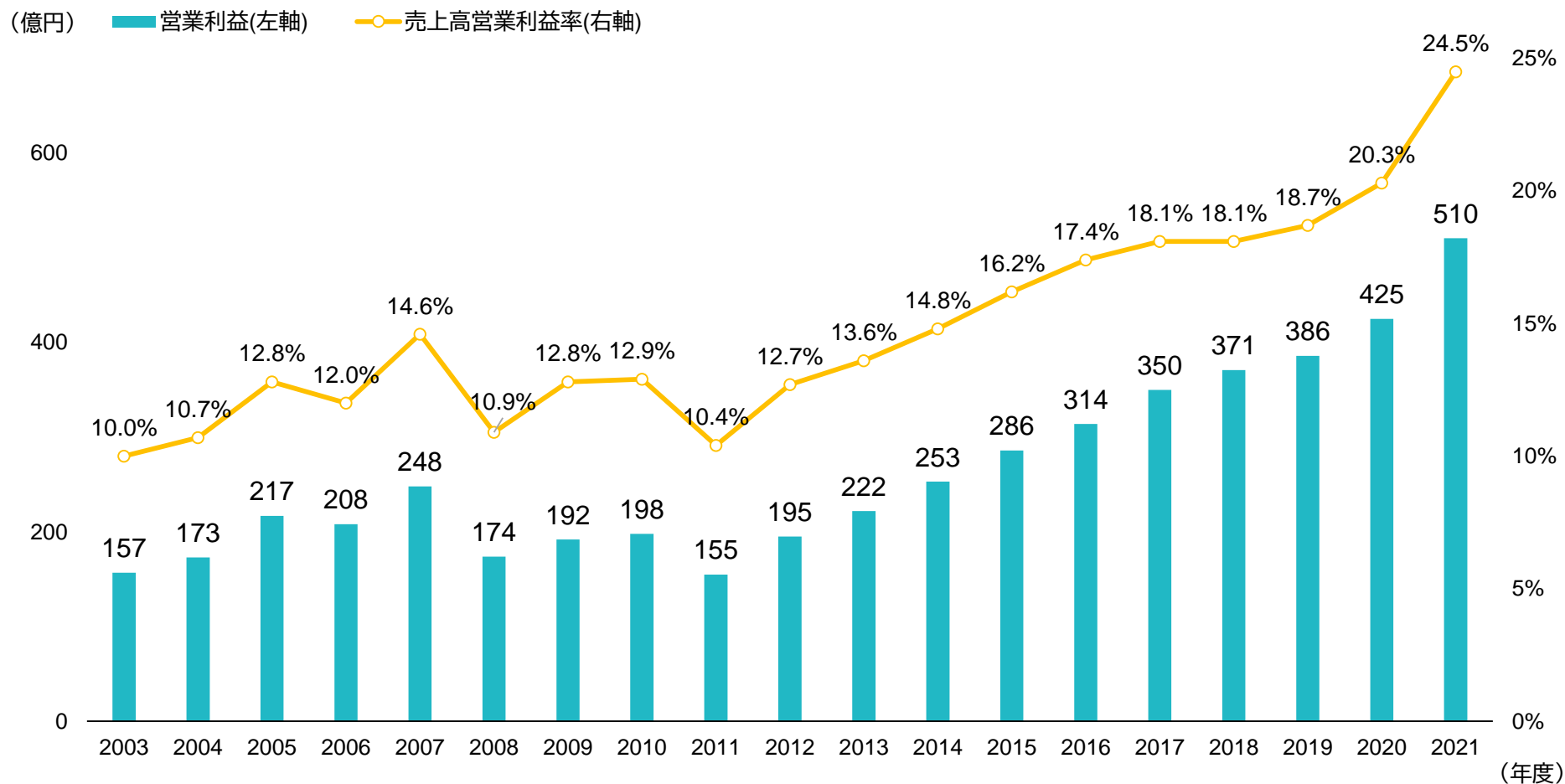
### (3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上)</li> <li>■ 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向</li> </ul>
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

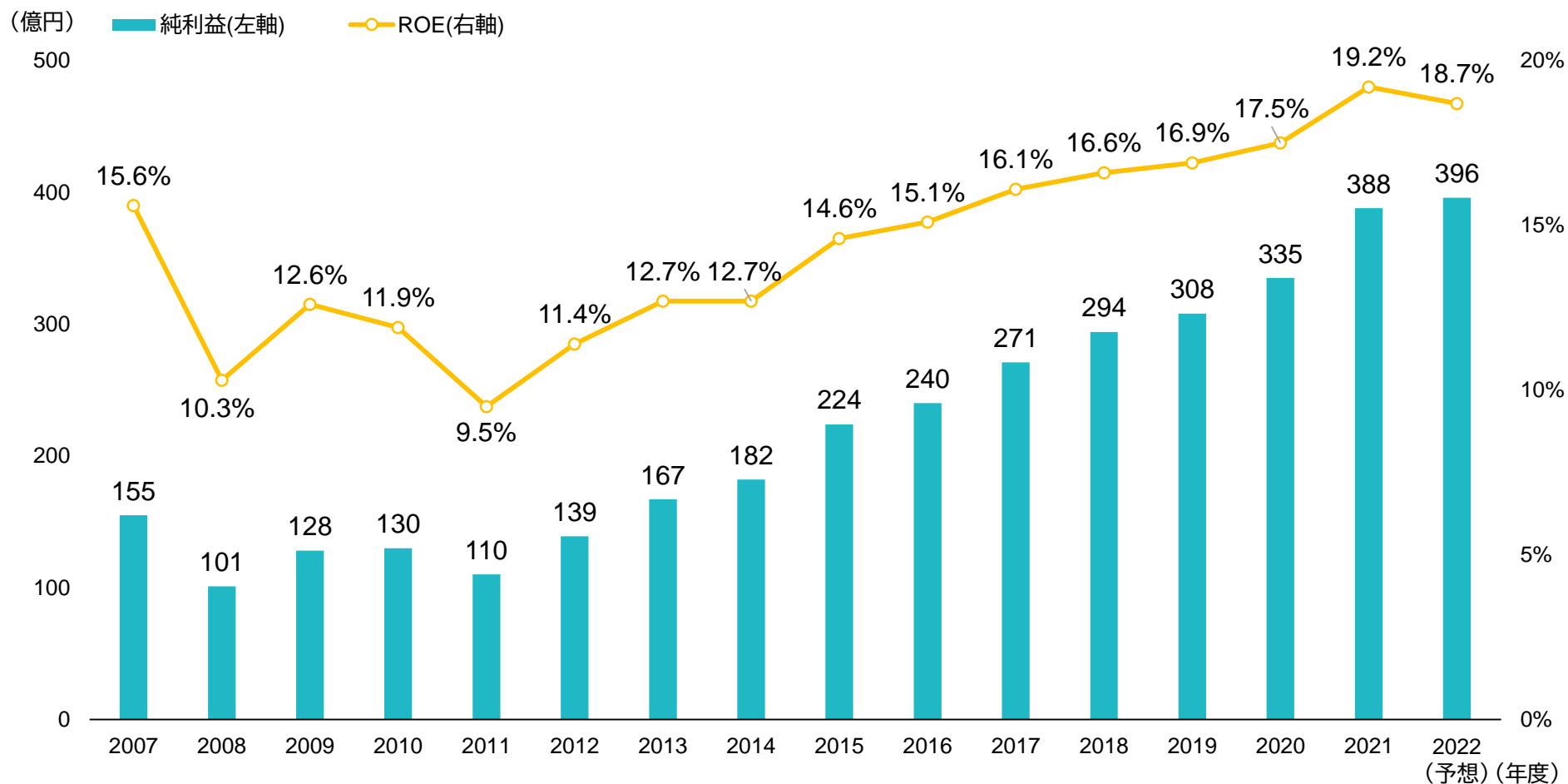


# 売上高営業利益率の推移

長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降19年連続10%以上)。  
2021年度実績は24.5%

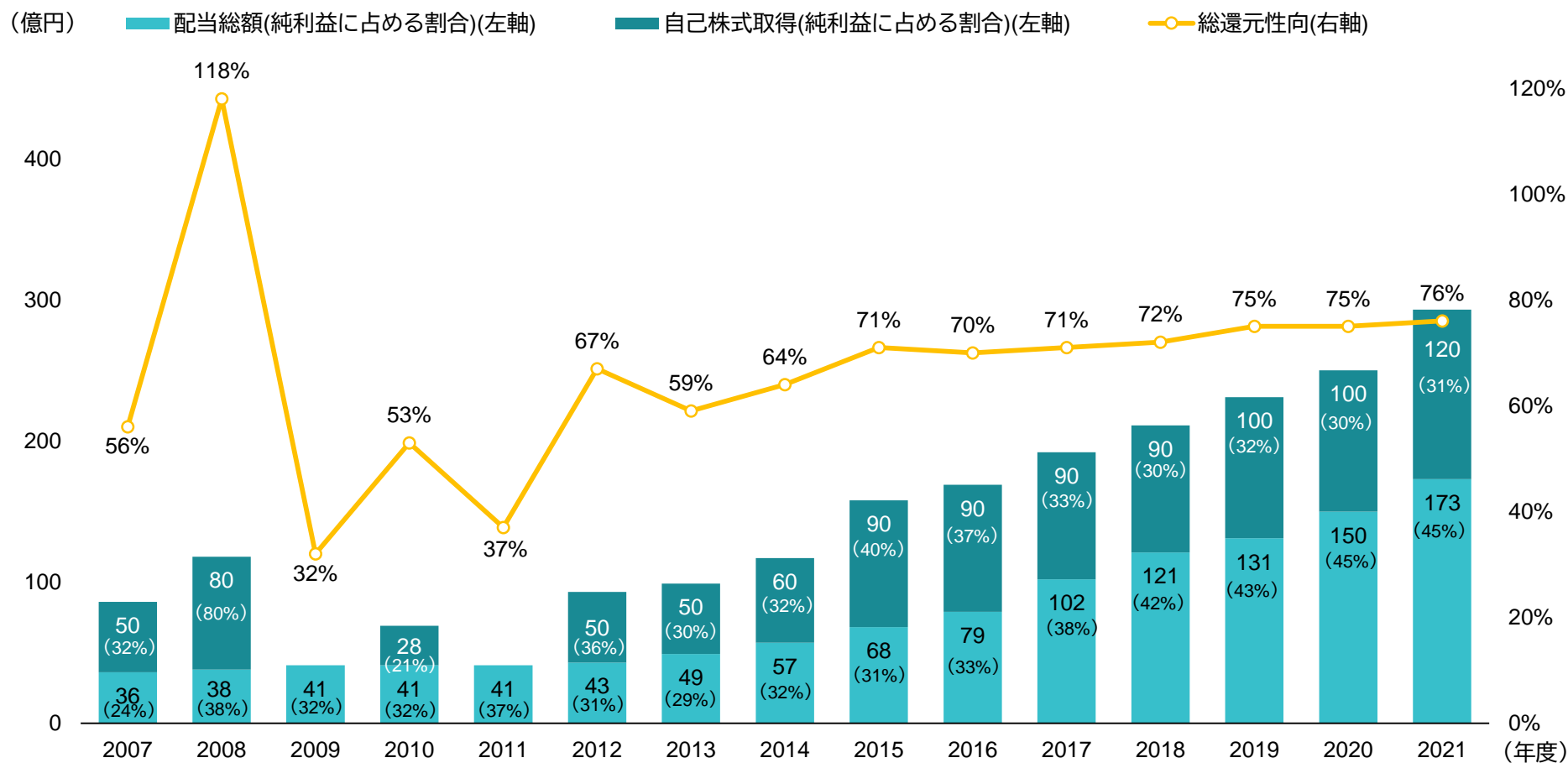


ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持。中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成。新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標。2022年度予想は18.7%



# 株主還元 総還元性向

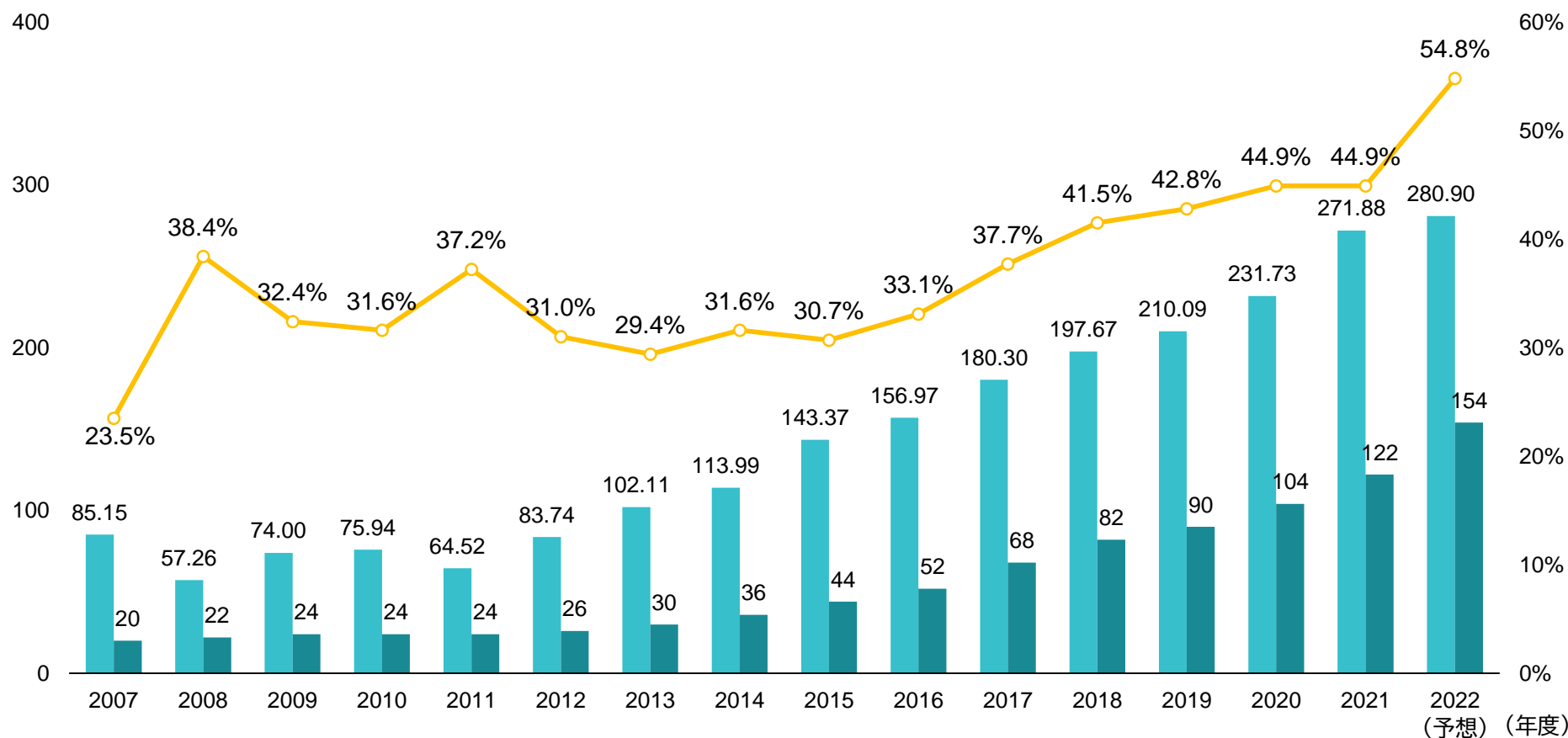
配当と自己株式取得による株主還元の結果、総還元性向は60%-70%で推移。中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成。2021年度実績は76%。新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標。



# 株主還元 配当性向

- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2021年度実績は44.9%  
新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2021年度まで10期連続増配

(円/株) ■ EPS(左軸) ■ 配当(左軸) ○ 配当性向(右軸)



ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-21年度取得総額1,045億円、4,475万株(取得開始前発行済株式の23.8%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式を継続的に取得し、株主還元を強化

## 2006-2021年度 自己株式取得実績

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
自己株式取得総数(千株) <sup>※1</sup>	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	2,033	44,748
取得価額総額(億円) <sup>※1</sup>	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	1,045
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	2,000	44,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	143	-
期末自己株式数(千株) <sup>※2</sup>	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	1,384	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	76	-

## 2018-2021年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021		
	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	計	上期	下期	計
自己株式取得総数(千株) <sup>※1</sup>	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	771	2,033
取得価額総額(億円) <sup>※1</sup>	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50	120
自己株式消却総数(千株)	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	0	2,000

※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を除く ※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を含む

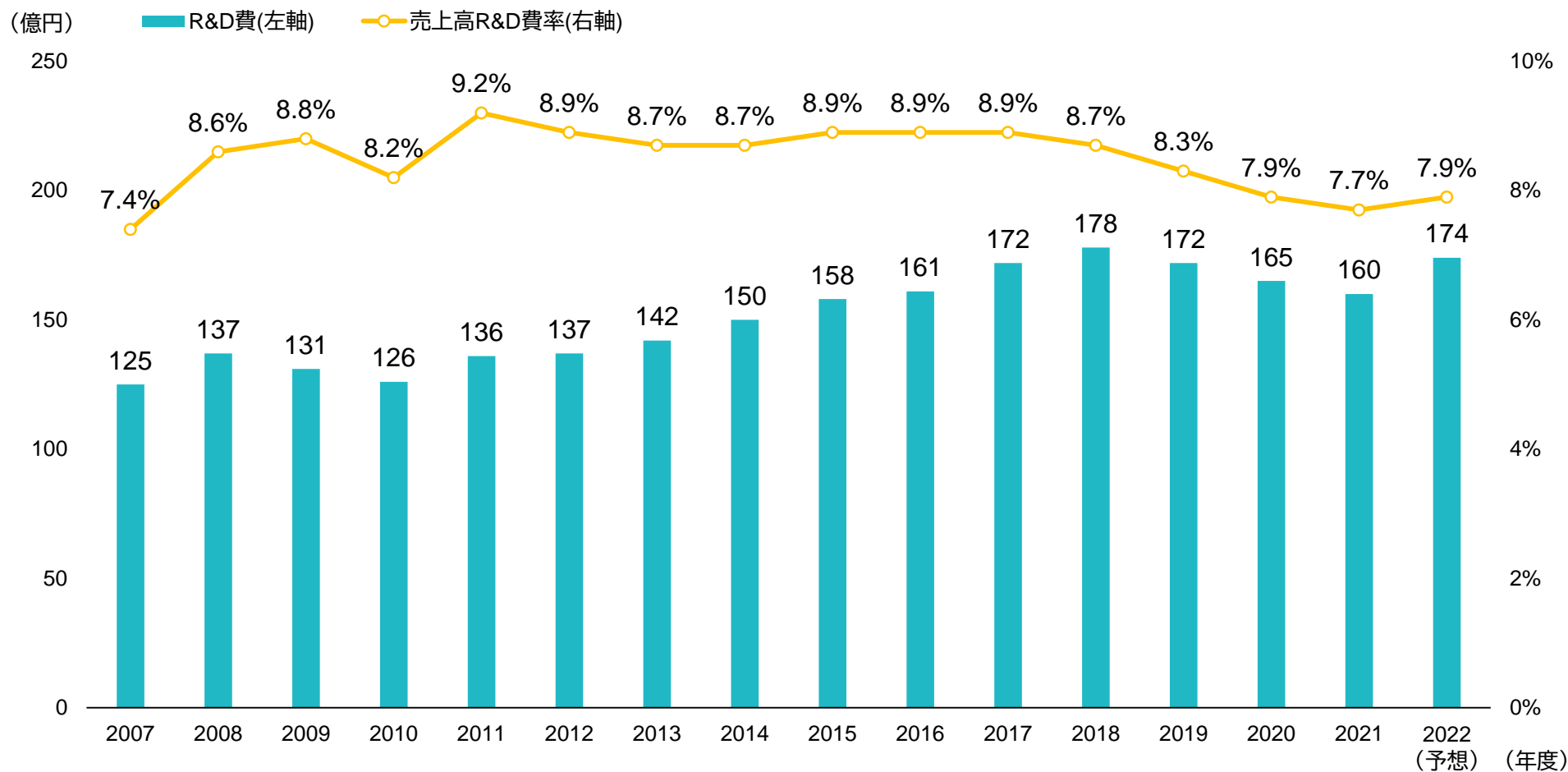
※3 2009年度、2011年度は自己株式取得なし

## キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

# 研究開発費の推移

独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業として、研究開発を重視。売上高研究開発費率は8-9%と高水準を維持

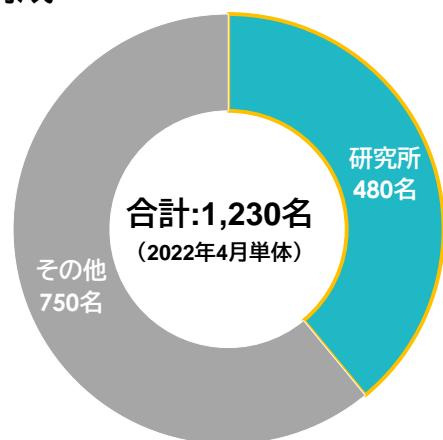


R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保。総合職の約40%は研究開発に関わる人材

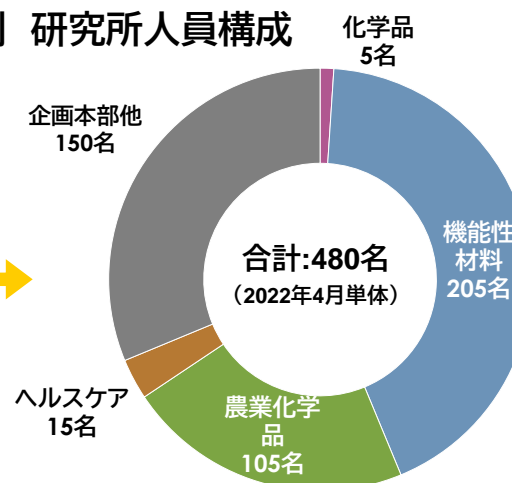
## セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 予想				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	386	22	5.7%	4	1.0%
機能性材料	899	305	33.9%	78	8.7%
農業化学品	729	195	26.7%	45	6.2%
ヘルスケア	59	21	35.6%	7	11.9%
企画本部他	-	-	-	40	-
合計(企画本部他含む)	2,190	535	24.4%	174	7.9%

## 総合職 人員構成



## セグメント別 研究所人員構成



※ 表記している人数は概数

# 長期業績推移

(億円)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)
売上高	1,559	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,190
営業利益	157	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	535
経常利益	146	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	439	537	541
純利益	87	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	335	388	396
EBITDA	261	269	316	305	345	276	301	303	259	291	308	338	383	403	455	480	492	530	612	636
売上高営業利益率	10.0%	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	24.4%
ROE	13.4%	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	18.7%
EPS(円/株)	46.21	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	280.90
配当(円/株)	11	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	104	122	154
配当性向	23.8%	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	54.8%
自己株式取得	-	-	-	47	50	80	-	28	-	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	-
総資産	1,726	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	-
純資産	704	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	-
現預金	59	43	85	110	76	97	148	211	279	319	308	313	353	357	377	362	306	324	347	-
有利子負債	574	446	415	324	344	455	421	399	389	381	361	351	331	308	286	266	246	227	227	-
自己資本比率	40.1%	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	-
設備投資	66	66	92	121	109	139	101	96	83	79	88	98	102	143	137	99	157	158	110	183
減価償却費	104	96	99	97	97	102	110	104	105	95	85	85	97	89	105	109	105	104	102	114
R&D	87	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	165	160	174
同 売上高比率	5.6%	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.9%

※ 2021:会計方針の変更影響を含む(p5,p72参照)



# セグメント別売上高・営業利益推移

## 売上高(A)

(億円)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022 (予想)※
化学品	381	369	345	355	343	343	348	349	357	343	319	376	386
機能性材料	380	340	374	428	494	518	528	588	630	655	716	817	899
農業化学品	344	338	354	391	457	475	520	581	627	640	638	658	729
ヘルスケア	96	100	127	116	88	87	80	75	70	70	67	66	59
卸売	441	448	466	507	544	556	552	595	679	679	698	804	837
その他	270	200	212	214	209	209	240	215	246	224	238	236	265
調整額	-370	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-585	-877	-985
合計	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,190

## 営業利益(B)

化学品	24	16	19	19	19	39	38	34	30	13	15	38	22
機能性材料	79	48	72	88	120	120	125	142	150	170	224	277	305
農業化学品	48	44	50	62	92	108	132	164	184	193	182	183	195
ヘルスケア	44	46	52	49	23	20	17	12	10	9	4	9	21
卸売	14	13	14	15	17	18	17	18	20	21	25	29	23
その他	10	3	7	8	6	5	10	6	9	7	8	7	8
調整額	-21	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-33	-33	-39
合計	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	535

## 営業利益率(B)/(A)

化学品	6.3%	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	4.7%	10.1%	5.7%
機能性材料	20.8%	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	31.3%	33.9%	33.9%
農業化学品	14.0%	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.5%	27.8%	26.7%
ヘルスケア	45.8%	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	6.0%	13.6%	35.6%
卸売	3.2%	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.6%	3.6%	2.7%
その他	3.7%	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	3.4%	3.0%	3.0%
合計	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	24.4%

## セグメント資産

(2021年度)(D)

化学品	321
機能性材料	551
農業化学品	907
ヘルスケア	91
卸売	315
その他	122
調整額	490
合計	2,797

## ROA(2021年度)

(B)/(D)

化学品	11.8%
機能性材料	50.3%
農業化学品	20.2%
ヘルスケア	9.9%
卸売	9.2%
その他	5.7%
合計	18.2%

※ 2010-11:旧セグメント, 2012-:新セグメント

※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 2021実績:会計方針の変更による売上高減少を含む(p5,p72参照)

※ 卸売:日星産業、その他・調整額:日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2010-21数字は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

※ 2019-22予想:新方式セグメント別営業利益

1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)

2. 2019年度は遡及して再計算

3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

# セグメント別売上高 四半期推移(2019年度～2022年度業績予想)

(億円)

	2019年度 実績					2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 予想				2021年度 予想 (2022/2発表) 4Q
	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	下期	計	
化学品	84	84	87	88	343	74	73	83	89	319	88	83	105	100	376	102	91	193	386	97
ファインケミカル	26	26	26	27	105	27	27	28	32	114	32	30	37	32	131	37	36	74	147	37
基礎化学品	58	58	61	61	238	47	46	55	57	205	56	53	68	68	245	65	55	119	239	60
機能性材料	151	163	170	171	655	171	175	192	178	716	200	196	209	212	817	212	222	465	899	208
農業化学品	147	132	55	306	640	146	111	63	318	638	134	116	119	289	658	172	135	422	729	296
ヘルスケア	19	15	16	20	70	15	15	14	23	67	11	22	20	13	66	16	14	29	59	11
ヘルスケア	14	7	9	10	41	7	8	6	8	29	6	8	5	6	25	8	4	9	21	4
ファインテック	5	8	6	10	29	8	7	8	15	38	4	15	14	8	41	8	10	20	38	7
卸売	175	158	175	171	679	182	155	178	183	698	178	186	222	218	804	197	200	440	837	187
その他	49	49	51	75	224	48	46	68	76	238	49	55	61	71	236	61	60	144	265	78
調整額	-138	-123	-139	-143	-543	-143	-123	-161	-158	-585	-195	-205	-241	-236	-877	-236	-235	-514	-985	-207
合計	487	478	415	688	2,068	493	452	437	709	2,091	465	453	495	667	2,080	524	487	1,179	2,190	670

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 2020年度より、ファインオキソコールを基礎化学品からファインケミカルへ移管している

※ 卸売：日星産業、その他・調整額：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2019～2021年度数字は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

# セグメント別営業利益 四半期推移(2019年度～2022年度業績予想)

(億円)

	2019年度 実績					2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 予想				2021年度 予想 (2022/2発表)
	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	下期	計	4Q
化学品	9	-6	5	5	13	7	-8	7	9	15	13	-1	13	13	38	16	-2	8	22	7
機能性材料	40	44	47	39	170	53	54	63	54	224	70	62	76	69	277	71	74	160	305	65
農業化学品	45	49	-18	117	193	40	38	-13	117	182	41	29	31	82	183	57	38	100	195	92
ヘルスケア	4	1	1	3	9	-1	1	0	4	4	-2	7	4	0	9	6	5	10	21	-3
ヘルスケア	2	-2	-2	0	-1	-2	-1	-4	-2	-9	-3	-2	-3	-3	-11	3	1	1	5	-5
ファインテック	2	3	2	4	11	2	2	3	6	13	1	8	8	3	20	3	4	9	16	3
卸売	5	5	6	5	21	7	5	7	6	25	7	6	8	8	29	6	6	11	23	4
その他	1	0	1	5	7	0	0	4	4	8	1	-1	2	5	7	2	-1	7	8	5
調整額	-11	-6	-7	-3	-27	-8	-8	-12	-5	-33	-11	-8	-8	-6	-33	-12	-6	-21	-39	-9
合計	93	87	35	171	386	98	82	56	189	425	119	94	126	171	510	146	114	275	535	161

※ 2019-22予想 :新方式セグメント別営業利益(p81参照)

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 卸売: 日星産業、その他・調整額: 日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、日本肥糧、企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度実績、2022年度予想の売上高・営業利益は中期経営計画説明資料(2022年5月13日発表)p33に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2013～2021年度数字は旧医薬品セグメント(p21,p52参照)

# 主要製品用途一覧

セグメント	製品名	主用途			
化学品	ファインケミカル	デピック	エポキシ樹脂： ソルダーレジストインク材料、LED封止材料、粉体塗料硬化剤		
		メラミンシアヌレート	難燃剤		
		ハイライト	塩素化イソシアヌル酸： プール、浄化槽用殺菌消毒剤		
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料		
	基礎化学品	メラミン	合板用接着剤		
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水		
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤		
機能性材料	電子材料	サンエバー	液晶配向材用ポリイミド		
		ARC®(KrF、ArF)	半導体用反射防止コーティング材		
		OptiStack®(多層材料)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC)		
		OPTIFOCUS	イメージセンサー用マイクロレンズ材料		
		エルソース	有機EL用塗布型ホール注入材		
	無機コロイド	スノーテックス	コロイダルシリカ： 研磨材(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板		
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル： フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤		
		アルミナゾル	自動車用触媒、電子機器		
		サンコロイド	眼鏡レンズ用高屈折率ゾル		
		セルナックス	フィルム用帯電防止		
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材		
		農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
				パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
				シリウス	稲
ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園				
アルデア	稲				
殺虫剤	サンマイト、マイトコーネ、スターマイト		果樹、かんきつ、茶、野菜		
	グレーシア		野菜、茶		
殺菌剤	パルサー、イカルガ、グレータム(チフルザミド)		ばれいしょ、稲、芝		
	ライメイ		ばれいしょ、野菜、ブドウ		
	クインテック(キノキシフェン)		果樹、野菜		
	ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜			
動物医薬品	フルララネル	ペット用外部寄生虫薬ブラベクト、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT原薬			
	リバロ原薬	高コレステロール血症治療薬			
	ファインテック	課題解決型受託事業およびジェネリック製品開発			
ヘルスケア					

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標

※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標

---

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。

---